

きらりと光る村

# ひのほら

東京都 檜原村

HINOHARA

きらりと光る村  
檜原村



檜原村  
村勢要覧  
2024

村勢要覧



## 檜原村 企画財政課

発行：2024年3月  
〒190-0212 東京都西多摩郡檜原村467-1  
電話：042-598-1011（代表） ファックス：042-598-1009  
<https://www.vill.hinohara.tokyo.jp/>  
制作・印刷：サンニチ印刷

VOC  
FREE

VEGETABLE  
OIL INK

GREEN PRINTING JAPAN  
P-010002



# ひのはら

## きらりと光る村

自然豊かな東京都の「村」。  
ここには、未来に広がる大きな可能性が  
きらりと光っています。

### 移住

#### 繋がり



### 歴史

#### 伝承



### 観光

#### 自然の恵



### 産業

#### 森と土の恵



檜原村長  
吉本昂二

自然に育まれ  
活力と幸せあふれる  
檜原村を目指して

檜原村は東京都の西部に位置し、周囲を見回すと900mから1500mの山々に囲まれ、ここが東京かと思うような自然豊かな村であります。大半が秩父多摩甲斐国立公園に指定され「東京の奥座敷」、「都民の憩いの場」として豊かな自然が残り、四季折々の魅力的な風景が楽しめます。  
明治22年の町村制施行後から現在に至るまで一度も合併も分

村も行われず「檜原村」であり続け、今年村制施行135年を迎えます。

全国的に人口減少・高齢化が進む状況の下、これからも「檜原村」であり続けられるよう、人口減少に歯止めをかけるような様々な施策を進めていくとともに、村民の皆様により添った村政運営を行ってまいります。

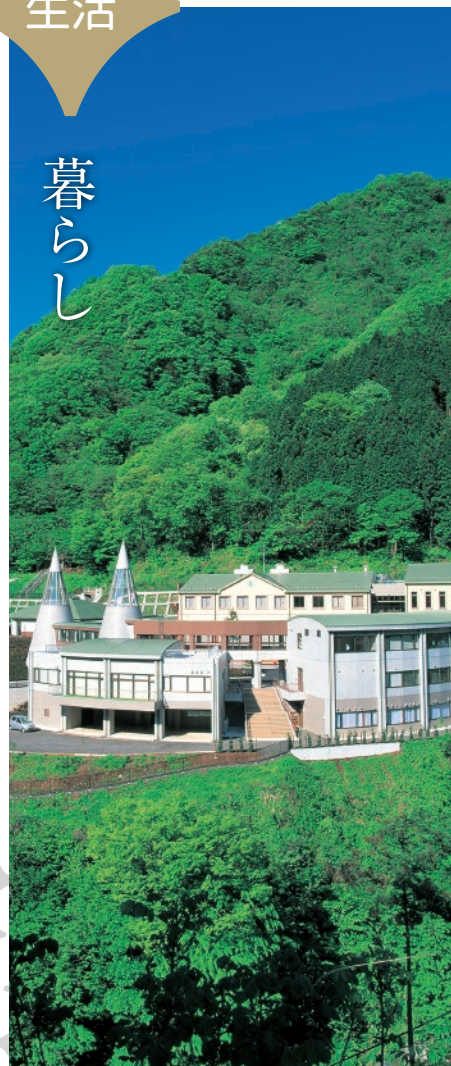
住民の皆様がこの村を誇りに思っていたとき、豊かな清流や森林を未来永劫守り、安心して住み続けられる村を目指してまいります。

## CONTENTS

- 2 ひのはらの産業 brand
  - 2 森の恵
  - 6 土の恵
- 10 ひのはらの観光 tourism
  - 10 自然の恵
  - 12 弘沢の滝
  - 14 神戸岩
  - 16 ヒルクライム
- 17 ひのはらの歴史 history
- 22 ひのはらに移住 migrate
- 24 ひのはらの生活 life
  - 25 めるか檜原
  - 28 やすらぎの里
- 30 議会
- 32 資料編

### 生活

#### 暮らし





# 木の恵

村の総面積93%が森林である恵みを生かす



## 檜原村木材産業協同組合

豊かな森は、  
先人からの贈り物

首都東京とは思えないほど、雄大な自然の中にある檜原村。この村の人々にとって、山は身近な存在であり、暮らしの場。古くから山へ入り、炭焼きや山仕事によって生活の糧を得てきました。

現在、村の総面積の約93%を占める森林の約6割は、太平洋戦争後の復興期に、将来の資材として村人が植えたスギやヒノキ。国産材の需要が低迷するなか伐採されることなく年月を経て成長し、ヤマザクラやコナラといった天然林とともに、豊かな檜原の森を形成しています。

いわば先人からの贈り物である森林資源を今の時代に即した形で活かし、村に希望と活力を育んでいこうと、村内の林業事業者と製材所によって2018年に設立されたのが、「檜原村木材産業協同組合」です。

目指すのは、  
森と都市との新しい関係

当初村内の4社で始まった組合が、現在では村の外から30社以上の個性あふれる企業が加盟するようになり。直接森に関わる林業事業者や製材業者に加え、ノベルティや雑貨といった小物から建築資材に至るまで、あらゆる形に木材を加工している業者、それらを販売する業者、さらには、体験サービスを考案し提供するなど、森林環境そのものを活用している企業など、「檜原の森」を核に多様な業種が集まっています。

それぞれの企業が持つ強みを活かし連携することで、1社ではできないことも実現できるようになることが、組合の最大の強み。寄せられる相談や案件、直面するさまざまな課題に、新たな視点で取り組みながら、森の恵みを都市と共有し、森と都市との新しい関係性作りに励んでいます。



木材乾燥施設





館内2階に併設する「さとやま食堂」では、地場産の食材を盛り込んだメニューが楽しめます



木製のおもちゃなどで遊ぶことができます



## 檜原 森のおもちゃ美術館 HINOHARA TOY MUSEUM TOKYO

### 五感で遊べる体験型美術館

木材の活用を木のおもちゃに求めて始まった「檜原村トイビレッジ構想」。その象徴的な存在が、2021年11月にオープンした「檜原森のおもちゃ美術館」です。

館内に足を踏み入れると、そこは、ヒノキの香りに満たされた非日常の世界。1階は、山があり、川が流れて、段々畑が広がる、もう一つの檜原村。畑の大根やニンジンなどを抜いたり、原木栽培のシイタケを収穫したり、じゃがいもを転がしたりと、檜原の暮らしを模した仕掛けがそこかしこに施された空間で、自由に遊ぶことができます。

一方2階はテーマごとのエリア。赤ちゃん専用の部屋や、世界のおもちゃの展示室、併設の工房で作られたおもちゃで遊べる部屋などがあり、じっくりと木のおもちゃに向き合うことができます。

### 地域の思いが集まって：

「この美術館は、かつて北檜原小学校の校舎があった場所に、近くの山から切り出した木材で建てられました。地域に愛されてきた学校なのでその面影を少しでも残したいと、黒板や柱時計などの備品をそのまま使ってもらいますよ」と話すのは、大谷貴志館長。この美術館の運営を担うためにNPO法人を設立した、地域の有志の一人です。初年度の来館者は4万人。事業としての成功も然ることながら、かつて自分達も集ったこの場所に、子ども達の姿と元気な声が蘇ったことが、何より嬉しいと話します。

おもちゃを通して多くの子ども達に木の魅力を伝えるおもちゃ美術館は、地域の人々の心の拠り所にもなっています。



1階広場はユズの木畑など檜原村を表現しています



## 土の恵

生活に根付いた農業のかたち



## じゃがいも栽培組合 鈴木留次郎さん

江戸東京野菜  
「おいねつるいも」

山肌を拓きわずかな農地を確保してきた檜原村の人々にとって、山間地でも栽培が容易で、栄養価が高く腹持ちも良いじゃがいもは、古くから大切な作物でした。「檜原には、江戸時代に山梨から入ってきた『都留いも』と、大正時代に神奈川から数馬に嫁に来たおいねさんが持ってきた『おいねいも』があって、昭和に入って『おいねつるいも』と呼ぶようになったんです。江戸東京野菜にも認定されている、檜原村の特産品ですよ」と教えてくれたのは、鈴木留次郎さん。傾斜地にある畑は水はけが良く日当たり良好で、気候も栽培に適しているため、檜原のじゃがいもは味が濃くておいしいのだと、誇らしげに語ります。

特産のじゃがいもで、  
村を元気に

『じゃがいも栽培組合』の結成は、今から約7年ほど前。村がじゃがいも焼酎の製造に乗り出したのがきっかけでした。鈴木さんは、原料を安定供給するため、自家用だったじゃがいもを組合が買い上げ、焼酎工場に販売する仕組みを作ることになった。「檜原には専門農家はないものの、ほとんどの家で当たり前のようにじゃがいもを作っている。それが収入につながれば、張り合いになるし、生きがいにもなりますからね」と鈴木さん。換金化を高めることを柱に、最初は4人で始めた組合員が今では30人の大所帯になりました。最近では生産意欲が高まり、量も品質も上がって引き合いいも増えていると、嬉しそうに話します。

生き生きと土を耕す村民の姿は、檜原の元気の源になっています。



檜原村公式キャラクター ひのじゃがくん



山梨県上野原市の龍泉寺に祀られる中井清太夫の石碑「都留いも」がまず上野原市に伝わり、檜原村へ伝わった





館内では、焼酎をつくる様子を見学できます



## 直売・産直 ひのはらファクトリー

純檜原産の  
じゃがいも焼酎

「特産のじゃがいもを使って、村内で焼酎を作ろう！」  
今から20年ほど前に始まった檜原村の挑戦です。山積する課題を前に、北海道や長野の醸造所に製造委託していた時期もありましたが、「村内で！」の思いは強く根気強く関係機関へ働きかけを続けた結果、2019年に国家戦略特区として焼酎の製造が認められることに。村では、これまで観光拠点の少なかった北部地域に焼酎工場を建設し、悲願だった村内での製造を開始。工場には、幅広くものづくりを支援していきたいという思いを込めて、「ひのはらファクトリー」と命名しました。

檜原から世界へ

2021年にオープンした「ひのはらファクトリー」は、檜原産のヒノキをふんだんに使った気持ちの良い施

設。特産のじゃがいもで作った焼酎「ひのはら物語」をはじめ、地場産の土産物が並び、地場野菜を使った軽食を楽しめるカフェが併設されていて、焼酎が作られる様子をガラス越しに眺めながらゆっくり過ごせる人気の観光拠点になっています。

ものづくりを支援するため、施設内にはレーザー加工機などを整備し、檜原産の木材を使った商品開発にも精力的に取り組んでいます。開発した雑貨や精油などのオリジナルグッズは店内で販売。起業を目指す若者などからの相談にも対応しています。

2023年2月に発表した世界初の木の酒「ひのはら物語 HINOKI」は、世界に衝撃を与えました。すでに、設立当初から取り組んできたヒノキの精油「LSD・E・YOKU」のアメリカ展開や、インバウンド向けのツアー開発も始まっており、世界を視野に斬新な発想で意欲的な挑戦を続けています。



左：世界初の木の酒「ひのはら物語HINOKI」 右：檜原産じゃがいも焼酎「ひのはら物語」



観光

# 自然の恵



Tokyo  
Hinoha  
Land

自然との触れ合いや、地域固有の文化体験

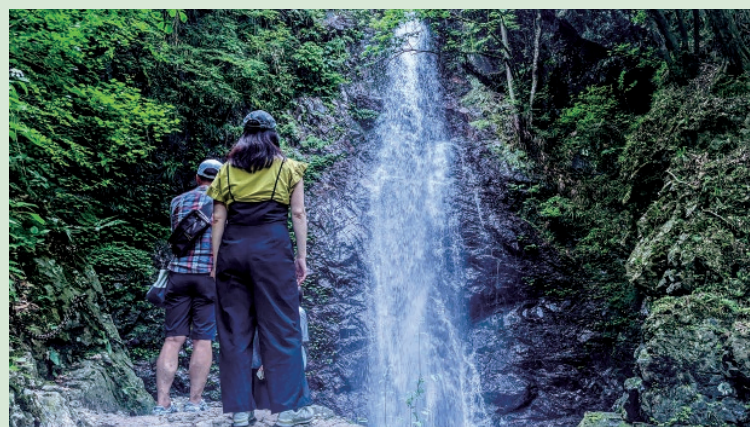
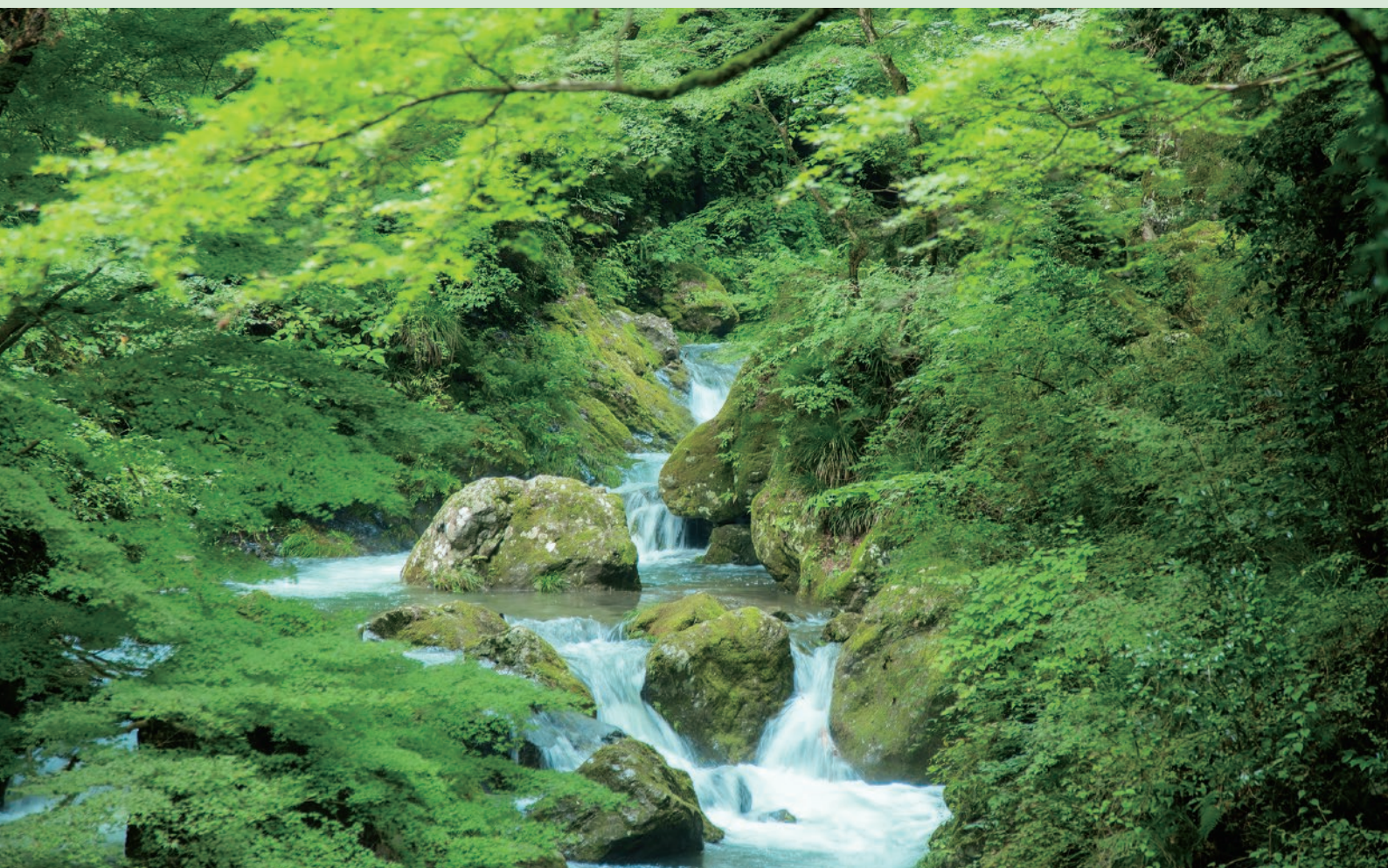
## 地域の魅力を再発見 「エコツーリズム」を推進

檜原村は、特色ある自然環境資源、地域固有の歴史文化、生活資源など、たくさんの魅力にあふれています。村では、こうした魅力を訪れる人々に地域ぐるみで伝えることで、その価値や大切さが理解され、環境保全や地域振興につながることを目指し、2016年に「檜原村エコツーリズム推進協議会」を発足。2018年には、「檜原村エコツーリズム推進全体構想」が国の認定を受けるなど、エコツーリズムの推進に取り組んできました。

## 村全域がツアーの舞台 「東京ひのはらんど」

「東京ひのはらんど」のプログラムは実に多彩。大いに触れるさまざまな「遊び」はもちろん、伝統芸能、農作業や山仕事、自然と共にある山村生活など、地域の魅力を体験し、楽しみながら学べるよう、工夫を凝らして構成し、ガイドも養成しています。

これからも、自然がもたらす恩恵である生態系や、日本の原風景ともいえる「村」の文化を体験できるエコツアーの充実に努めるとともに、さらなる「地域の宝」の発掘にも注力していきます。



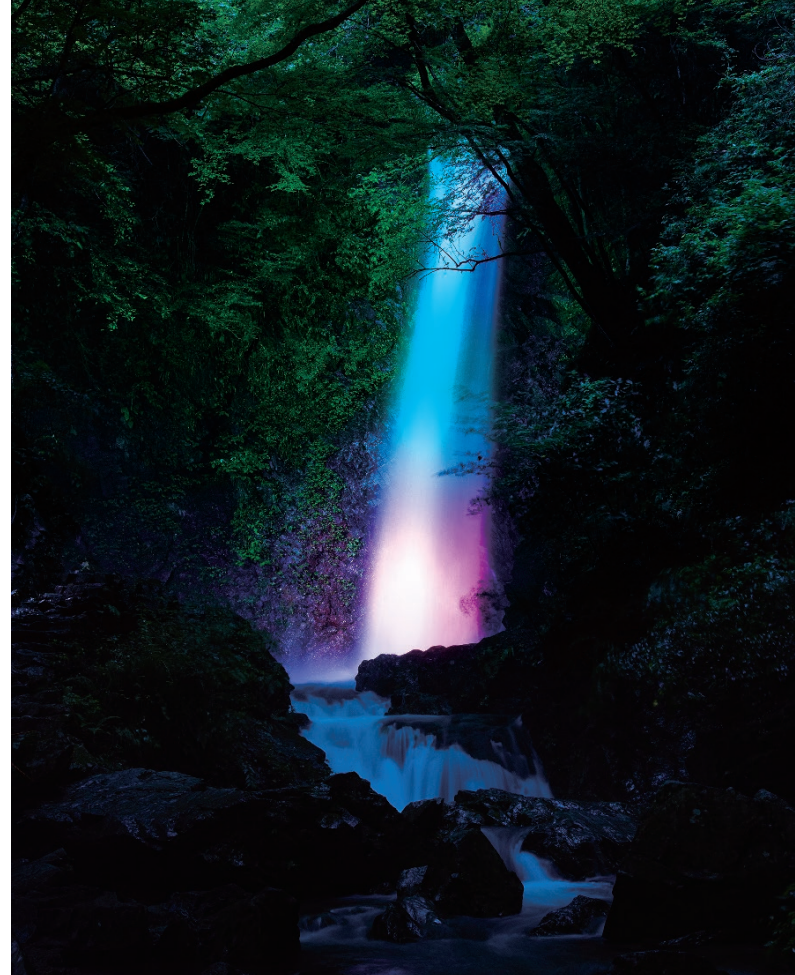


## 伝説

流れ落ちる様が、僧侶が威儀<sup>いぎ</sup>を示すために用いる法具「払子<sup>ほうし</sup>」に似ていることから、「払子の滝沢」→「払子沢」→「払沢」と呼ばれるようになったと伝わる払沢の滝。深く神秘的な滝壺には、滝の主である変幻自在の大蛇が棲むという伝説が残されています。また「雨乞いの滝」として、古くから村人に崇められてもきました。



冬は幻想的な氷瀑



夏の幻想的なライトアップ



秋は色鮮やかな紅葉



# 払沢の滝

日本の  
滝百選

ほっさわのたき

北秋川支流の瀬戸沢に懸かる四段の滝で、落差はおよそ60メートル。江戸時代から景勝地として知られ、都内で唯一「日本の滝百選」にも選ばれている東京都を代表する名瀑です。

「払沢の滝入口」バス停あるいは駐車場から、次々と現れる小滝を眺めながら、整備された遊歩道を歩くこと20分。雄大な大自然に囲まれ、清廉と流れ落ちる滝が現れます。

例年8月の「払沢の滝ふるさと夏まつり」では、カラフルにライトアップされた幻想的な風景を楽しめるほか、春の新緑、秋の紅葉、冬には滝全体が凍結して「氷瀑」となり、美しい景色を描き出します。





### 名前の由来

諸説ありますが、下手から見るとあたかも開きかけた岩戸のように見えること、その隙間の奥深くに大嶽神社が位置することから、神域への出入口と見立て、「神域の戸岩」→「神の戸岩」→「神戸岩」となったとする説が有力です。



# 神戸岩

都天然  
記念物

かのといわ

北秋川の支流 神戸川の上流部で、赤井沢を挟んで対峙する大岩壁。川下から見て右側の西岸が、高さ100メートル、上部の幅40メートル。東岸は、高さも上部の幅も80メートル。双壁の間には、60メートルにわたる峡谷が続いています。

岩質は、硬質なチャート層。風雨の浸食に耐えながら、長い年月をかけて創出された溪谷と屹立した岩壁で、2億5千年前のジュラ紀に形成された地層が露出し、周囲の自然と相まって、神秘的な景観を作り出しています。

1919年に東京都より名勝の指定を受け、国からも天然記念物の指定を受けていましたが、戦後の法改正で無効となり、1960年に改めて東京都の天然記念物に指定されました。

年間を通して雄大な景色を楽しむことができますが、特に秋の紅葉はひときわ見事です。



歴史

# 伝承

地域のつながりや伝統芸能を大切にしている場所



## 重要文化財小林家住宅

標高750mの山岳地域、3つの尾根が合わさる交通の要所に立つ小林家住宅。かつて炭焼きを生業とする多くの人々が尾根筋に住まいを構えていた檜原村にあって、小林家は、江戸などへ炭を供給する炭焼きの組頭でした。

小林家住宅は、主屋だけでなく、付属屋、炭焼き釜、湧泉、木炭の運搬に使用された尾根筋といった周辺環境も良好な状態で保存されており、東京都から山梨県にかけての民家の在り様を今に伝えると同時に、自給自足で、自然と共に暮らしていた当時の人々の生活を垣間見ることもできる貴重な文化財です。

建築は、江戸時代中期の1700年頃（推定）。2008年に、檜原村の所有となり大規模な保全修理工事が行われましたが、建築的特徴はそのままに、創建当初の部材も数多く残っています。現在は一般公開されていて、春には周辺でミツバツジが咲き誇ります。



東京ヒルクライム

## HINOHARA ステージ

2011年から続く「東京ヒルクライムHINOHARAステージ」。2013年開催の東京国体で自転車競技（ロードレース）のコースの一部を担うことが決まると、村はそのイベントとしてヒルクライム大会を企画し、すでに東京都の奥多摩町などで行われていた「東京ヒルクライム」シリーズの一つとして、この大会をスタートさせました。

檜原街道の時計台付近をスタートして奥多摩周遊道路に入り、都民の森を超え、東京都の道路最高点「風張峠（標高1146m）」でゴールという標高差900m、全長25kmのコースは、檜原村の豊かな自然を堪能できると人気を呼び、大会は地域を代表する一大イベントに。当初は100人だった参加者も、600人を超えるまでになりました。

秋風の吹く檜原村を、  
大自然を堪能しつつ疾走

村のイベントとして定着  
ヒルクライムの聖地へ

コロナ禍の影響で2020年、21年の開催は断念したものの、22年秋に復活。コースは、弘沢の滝入口付近をスタートし、奥多摩周遊道路を疾走して都民の森でゴールするまでの約21kmに変わりましたが、紅葉のなか、標高差750mのアップダウンに富んだ極上のコースを気持ちよく走行できると、400名の募集定員がすぐに埋まるほどの人気ぶり。

レース当日、多くの村民がコース沿いで旗を手に応援するなど、村のイベントとしても定着しています。

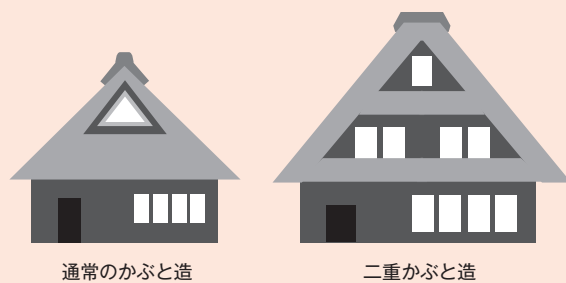




## 二重かぶと造へと変遷する過渡期の重要な建築遺構

### 登録有形文化財となるに至った建築的特徴

檜原村の茅葺屋根は、入母屋屋根を基本とし、両妻を切り上げる通常のかぶと造となり、明治に入ってから二重かぶと造に発展したと考えられます。旧高橋家住宅の主屋は通常のかぶと造であり、登録有形文化財の登録基準である「造形の基本となっているもの」として、二重かぶと造への変遷の過渡期に位置する重要な建物です。



両妻を切り上げるかぶと造の外観



小屋 3層部分



当時の駕籠



【背がい】  
近世の民家において側柱上部から腕木を突出して小板を張った棚をもつもの。  
(「建築大辞典」(彰国社))



式台玄関



### 登録有形文化財旧高橋家住宅

旧高橋家住宅は、人里地区の旧街道沿いに建つ、かぶと造の古民家。正面は背がい造りになっていて式台玄関を備えており、屋内は内法が高く、座敷や神棚など随所に良質な造りが見られます。

過去帖によると、高橋家は1728(享保13)年に没した七郎兵衛を初代とする農家で、養蚕も営んでいました。その後、7代目の栄順(安政2・昭和11)が漢方医を生涯としたことから、医者殿の屋号と呼ばれ人里地区の中心となりました。栄順は山を越えて広く往診しており、式台の上部に当時米順が使用していた駕籠が残されています。

建築は江戸時代末期。養蚕農家から医者への住宅へと変遷していく過程を伺い知ることが出来る貴重な建築遺構です。2015年に高橋家より檜原村に寄贈され、大規模な改修工事を経て、現在は「古民家カフェ晴ノ舎」として活用されています。





## 数馬獅子舞

数馬地区にある九頭龍神社に伝わる、一人立ち三匹獅子の奉納舞。例年9月の第二日曜日に行われる例大祭で、五穀豊穡、家内安全の祈願と感謝を捧げて太神楽と共に社前で上演されます。獅子舞伝授書には、1797（寛政9）年に、檜原村藤倉地区の木原氏より伝えられたと記されており、七道（庭固め）、ふとんばり、三拍子、ちどり、雌獅子隠し、藤がかり、花がかり、綱がかり、幣がかり、すりちがい、大ちらし、太刀がかりの12演目が伝承されています。例大祭では1日で、太神楽や花神楽なども含めた多くの演目が上演されます。数馬獅子舞は神様が獅子に乗り移り魔を払う舞のため、テンポが速いのが特徴で、別名「獅子狂い」とも表現されます。

1985年に、東京都指定無形民俗文化財（民俗芸能）に指定されています。





# 繋がり

人とのつながりが、  
温かくて心地いい

「自然と人、人と人をつな  
ぎたい」という想いから地域  
おこし協力隊になり、3年目  
を迎えています。この間、空  
き家調査や移住相談を担当す  
るかたわら、イベントやエコ  
ツアーなどの運営にもたずさ  
わらせてもらってきました。  
檜原村は、人とのつながりが強  
いですね。洗濯物を干した

まま出かけて雨が降ると、近  
所の方が取り込んでおいてく  
ださるなど、都心にはなかな  
かない関係性に、温かさや居  
心地の良さを感じています。  
地域おこし協力隊卒業後も、  
こうした関係性を大切にしま  
がら、この村と村外の人とな  
つなぐ活動をしていけたらと  
考えています。



空き家、移住・定住対策担当  
齊藤隼人

自然の恵みや人との  
つながりを日々実感

前職での経験を活かし、  
SNSで村の魅力を発信す  
る活動をメインにしていま  
す。これまで、村の方々に  
話を聞いて記事にしたり、移  
住者目線で日々のことをエッ  
セイ風にまとめたりして発信  
してきました。村の方々から  
仕事を依頼されることも増  
え、感謝しています。

檜原村では、季節の変化を  
感じながら、自然の恵みや人  
とのつながりに生かされてい  
ると実感しつつ生きることが  
でき、心地よく、幸せな毎日  
を過ごしました。訳あって一  
旦村を離れることになりました  
が、いつか成長した姿でこ  
の村に戻り、恩返ししたい  
と思っています。



フリーミッション  
高野優海

林間地でわさび栽培  
村をもっと豊かに！

活動のメインは農業振興  
で、村内で農業の6次産業化  
に取り組んでいる方の元でお  
手伝いをしながら学ばせても  
らっています。また、今年の  
夏から、林間地を活用したわ  
さび栽培にも挑戦していま  
す。活動を通して、専業農家  
はないもののほとんどの家が  
自家用の野菜を作っているこ

とを知り、リタイアされた  
方々が生きがいになっている畑  
でちゃんとお金が稼げるよう  
になったらいいなと考えるよ  
うになりました。わさび栽培  
も、そうした思いから始まっ  
た新しい取り組みです。大  
好きな村の役に立てるよう、  
ぜひ成功させたいと思っ  
ています。



フリーミッション  
友澤勇紀

地域おこし協力隊に聞く

心地よい温かさの中に  
多くの気づきや刺激も

以前は作業療法士としてリ  
ハビリを担当していたのです  
が、病院では難しい自分のや  
りたいことが見つかったの  
で、それができる場を求めて  
檜原村にきました。

活動のメインは空き家調査  
ですが、並行して高齢者を対  
象にした「いきいきサロン」  
で体操を教えたり、健康相談  
をしたりもしています。檜原  
村には元気な高齢者が多く、  
会話を楽しみながら予防につ  
ながる気づきや刺激も頂いて  
います。2024年4月に起  
業し、村の方々の生活支援も  
始めます。人とのつながりを  
大切にしながら、役に立つ  
ことを探して活動してい  
きます。



空き家、移住・定住対策担当  
中澤大樹



## 暮らし

## 第三セクター

「株式会社めるか檜原」の取り組み

かあべえ屋



hinohara's Life

ショッピングストア  
かあべえ屋村民の生活を笑顔で支える  
村唯一のミニスーパー

檜原村役場の東側にある「かあべえ屋」は、村で唯一のミニスーパーです。

10年ほど前の檜原村では、高齢化の影響で古くからあった商店が次々と閉店し、村民は、隣接するあきる野市などに出向いて買い物をしていました。「村内に食品や日用雑貨を買い求める店が欲しい」。村民の要望を受け取り組んだ結果、2016年7月に誕生したのが、「かあべえ屋」でした。店名は、物を「買う」を意味する村の方言「買うべえ」が由来。運営は、村が株式の98%を所有する第三セクター(株)めるか檜原が担っています。

「かあべえ屋」が取り扱っているのは約500品目。全国で共同仕入れを展開する全日食チェーンに加盟すること、スーパー並みの価格と豊富な品揃えを実現しています。店内には、肉、



魚、野菜といった生鮮食料品から、米、パン類、飲料、お菓子、日用雑貨まで、日常生活に必要なものがとろく狭しと並んでいます。加えて、地場産の旬の野菜や、豆腐、こんにゃくといった特産品、出来立てのお惣菜やお弁当も豊富。高齢者から、子どもを連れたママ世代まで、次々と訪れる人をスタッフが笑顔で迎え、日々の暮らしを支えています。





## ごみ収集

地域の衛生環境を守り、  
循環型社会の実現を目指す

豊かな暮らしを実現するためには、地域の衛生環境の保全が不可欠であり、増え続けるごみの処理も、避けては通れない重要な課題です。檜原村では、ごみの速やかな収集と適切な処理によって、村内の衛生環境の保全と整備を推進しています。

ごみの収集・運搬は、各家庭から排出されたごみをいかに速やかに収集し、生活環境に支障のないように安全に中間処理施設へ搬入することが重要です。(株)めるか檜原のスタッフは機能的。ペテランのスタッフを中心に、各々が運転も処理もこなしつつ、住民と笑顔を交わしながら、徹底したチームワークのもとで、村内を効率良く回っていきます。

また、地域全体の公衆衛生の向上も目指しており、(株)めるか檜原は、一般廃棄物の適正な処理を行うためのイン



フラとしても、大切な役割を担っています。

村では、早くからごみの減量化に取り組み、ごみの分別も徹底してきました。目指すのは、一人ひとりが意識を高く持ち、協力し合ってごみを減らしていくこと。村民と事業者、行政が連携・協力し、ごみの減量と再資源化を推進して、循環型社会の実現を目指します。

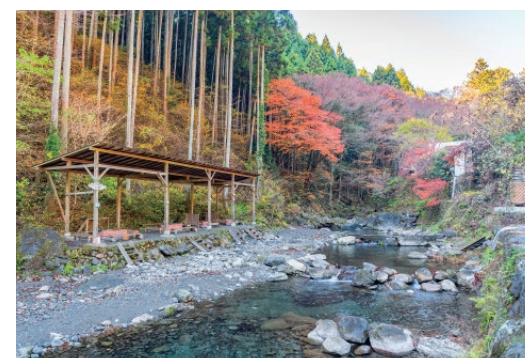


## 神戸国際 マス釣場

村の自然資源を有効活用  
美しい森に囲まれたレジャースポット

豊富な自然資源を有する檜原村。村内に13瀑もの有名な滝があるなど、清流にも恵まれています。なかでも水源に近く、水がきれいなことで知られる神戸（かのと）川の下流域に、神戸国際マス釣場があります。

そこは、大岳山と御前山に囲まれた深い森のなか。東京都指定天然記念物の神戸岩の間を流れてくる清流がマス釣りの舞台となっていて、流れの中には天然のヤマメやカジカの姿も見られます。釣り場には1日に数回ニジマスを放流しているのも、小さなお子様でも簡単に釣ることができ、ときにはヤマメやカジカが竿にかかることも。釣った魚は、スタッフが無料でワタ抜きや塩ふりをします。さらに、魚のつかみ取りやルアー・フライ、アウトドアグッズのレンタル



や食材コースを利用しての手ぶらでバーベキューなど、色々な楽しみ方ができるのも魅力です。

定期的な保全管理はもちろん、バリアフリーにも対応していて、駐車場から釣り場まで段差がなく、車いすやベビーカーでの乗り入れも可能。自然環境に配慮しながら、多くの方に檜原の自然を楽しんでいただくよう、日々努めています。



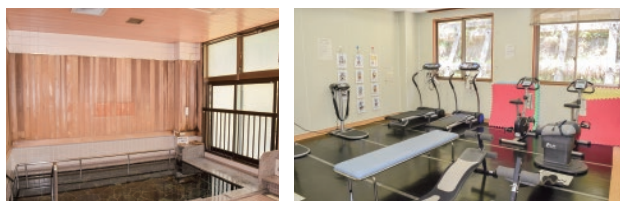
## けんこう館

一般診療施設と歯科診療施設があり、医師による診察や治療、健康相談などが日々行われています。レントゲン室、CT室、栄養指導室、相談室などもある、村民の健康管理の拠点です。



## ふれあい館

介護サービスを提供するデイルーム、特殊介助浴室などを備え、村民の利用が可能な和室、多目的ホール、会議室、温泉施設、また、檜原村社会福祉協議会事務局があります。



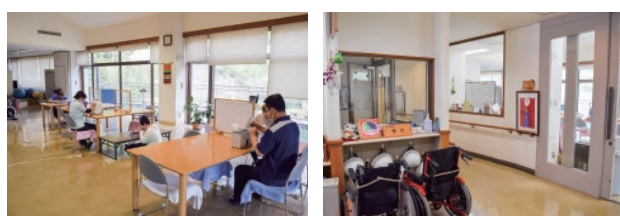
## じどう館

工作室、遊戯室、集会室、図書室があり、乳幼児から小中学生までが、遊んだり、本を読んだり、宿題をしたりしています。楽しいイベントも開催されます。



## ゆうあい館

広い作業所があり、知的・身体障がい者を対象とした機能訓練が行われています。布ぞうり作りや花の苗の栽培なども行っており、自主製品として販売しています。



# やすらぎの里



「保健」「医療」「福祉」の総合拠点  
「やすらぎの里」は、檜原村の「保健」「医療」「福祉」の総合拠点。約2万8000㎡の広大な敷地に建てられたモダンな施設には、「ふれあい館」「けんこう館」「ゆうあい館」「じどう館」の4つの建物があり、檜原村社会福祉協議会の事務局をはじめ、診療所保健センター、こども家庭センター、高齢者在宅サービスセンター、ふれあいセンター、地域包括支援センターといった関係機関も、すべてこの場所に集約されています。

また、病気やケガの診療や、乳幼児健診、各種健康診断、各種相談事業、高齢者のデイサービスも、この場所で行われています。

さらに、敷地内で源泉が自噴しており、それを用いた温泉施設「やすらぎの湯」がふれあい館3階に設けられています。やすらぎの湯に行けない高齢者や障がい者宅への温泉宅配も行われ、多くの村民に親しまれています。



# 行政

村づくりの主役は村民です。行政はその支援を積極的に行い、村民との協働のもとで多様な構想の実現に向けて村づくりを進めます。

私たちに求められているのは世界有数の大都市東京にある村として、自然の恩恵と地場産業を結び付けた活力ある地域を創造することです。これまでも地域特性を生かした施策を行ってきましたが、より一層村民との協働を図り、檜原村のさまざまな魅力や住み心地の良さを広くアピールして、存在感を高めていきます。

社会経済情勢の変化や村民の生活環境、価値観の多様化などにより、行政へのニーズも複雑化多様化しています。職員の質の向上を図るとともに、効率的な行政運営やDX化の推進など行政改革を進めて、行政機能の高い、村民に信頼される役場づくりに努めていきます。



少数精鋭で、魅力ある  
村づくりに挑む



小林副村長

吉本村長

中村教育長



# 議会

村民の意思を行政へ

檜原村議会は、選挙で選ばれた8名の議員で構成され、年間予算や条例の制定・改廃など村の重要な事項について、審議を行い決定します。

全員が参加し、一般質問や最終的な意思決定が行われる本会議には、年4回の定例会と、必要に応じて開催する臨時会があります。また、議



野村副議長

峰岸議長

案、請願、陳情などを専門的、能率的に審査するため、議員から選ばれた委員で構成する委員会（総務、産業建設、議会運営）が設置されています。

村民の代表として村民の意思を行政に反映させ、村づくりの方向性を決定しています。





●人口と世帯数の推移							(各年1月1日)
年	男(人)	女(人)	計(人)	対前年度比	世帯数(戸)	対前年度比	
昭和25	3,306	3,067	6,373	△269	1,126	△31	
30	3,171	3,025	6,196	△177	1,113	△13	
35	3,079	3,005	6,084	△112	1,111	△2	
36	3,022	2,970	5,992	△92	1,113	2	
37	3,022	2,985	6,007	15	1,113	0	
38	3,008	2,968	5,976	△31	1,098	△15	
39	2,995	2,911	5,906	△70	1,104	6	
40	2,957	2,864	5,821	△85	1,124	20	
45	2,651	2,629	5,280	△541	1,116	△8	
46	2,618	2,560	5,178	△102	1,119	3	
47	2,564	2,545	5,109	△69	1,124	5	
48	2,524	2,518	5,042	△67	1,116	△8	
49	2,508	2,456	4,964	△78	1,118	2	
50	2,455	2,392	4,847	△117	1,117	△1	
51	2,414	2,378	4,792	△55	1,114	△3	
52	2,372	2,303	4,675	△117	1,105	△9	
53	2,338	2,263	4,601	△74	1,100	△5	
54	2,272	2,196	4,468	△133	1,089	△11	
55	2,266	2,141	4,407	△61	1,090	1	
56	2,218	2,081	4,299	△108	1,084	△6	
57	2,193	2,059	4,252	△47	1,092	8	
58	2,237	2,091	4,328	76	1,171	79	
59	2,187	2,065	4,252	△76	1,179	8	
60	2,168	2,016	4,184	△68	1,174	△5	
61	2,126	1,962	4,088	△96	1,160	△14	
62	2,077	1,910	3,987	△101	1,150	△10	
63	2,040	1,868	3,908	△79	1,143	△7	
平成元年	2,246	1,915	3,961	53	1,244	101	
2	2,017	1,894	3,911	△50	1,243	△1	
3	1,997	1,883	3,880	△31	1,241	△2	
4	1,975	1,861	3,836	△44	1,250	9	
5	1,950	1,851	3,801	△35	1,247	△3	
6	1,918	1,838	3,756	△45	1,255	8	
7	1,876	1,819	3,695	△61	1,249	△6	
8	1,835	1,795	3,630	△65	1,259	10	
9	1,821	1,776	3,597	△33	1,274	15	
10	1,792	1,769	3,561	△36	1,274	0	
11	1,749	1,729	3,478	△83	1,270	△4	
12	1,726	1,720	3,446	△32	1,280	10	
13	1,685	1,700	3,385	△61	1,285	5	
14	1,660	1,646	3,306	△79	1,277	△8	
15	1,615	1,618	3,233	△73	1,263	△14	
16	1,586	1,575	3,161	△72	1,256	△7	
17	1,560	1,556	3,116	△45	1,244	△12	
18	1,524	1,519	3,043	△73	1,236	△8	
19	1,496	1,492	2,988	△55	1,248	12	
20	1,445	1,440	2,885	△103	1,230	△18	
21	1,409	1,421	2,830	△55	1,233	3	
22	1,379	1,392	2,771	△59	1,235	2	
23	1,330	1,353	2,683	△88	1,233	△2	
24	1,291	1,306	2,597	△86	1,235	2	
25	1,262	1,264	2,526	△71	1,214	21	
26	1,230	1,231	2,461	△65	1,196	18	
27	1,193	1,186	2,379	△82	1,180	16	
28	1,166	1,177	2,343	△36	1,187	△7	
29	1,148	1,135	2,283	△60	1,189	2	
30	1,118	1,126	2,244	△39	1,188	△1	
31	1,100	1,117	2,217	△27	1,181	△7	
令和2年	1,051	1,087	2,138	△79	1,160	△21	
3	1,048	1,064	2,112	△26	1,165	5	
4	1,030	1,039	2,069	△43	1,137	△28	
5	1,010	1,028	2,038	△31	1,127	△10	
6	987	999	1,986	△52	1,118	△9	

## 福祉

●生活保護の状況(令和4年度年度事務報告書より)						(単位:人)
年度当初世帯数	年度末世帯数	比較増減	年間の異動			
			開 始	廃 止		
16世帯 (16人)	16世帯 (17人)	0世帯 (1人)	5世帯 (6人)	5世帯 (5人)		

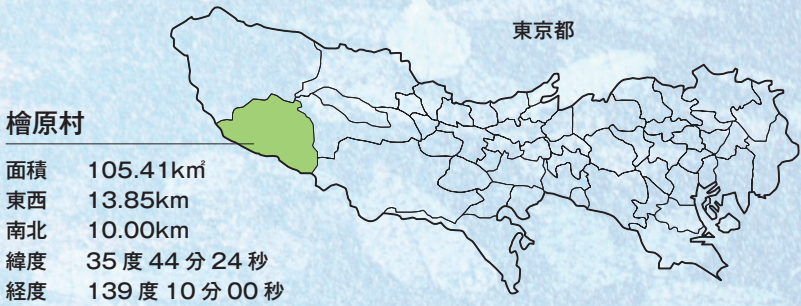
●心身障害者福祉(令和4年度事務報告書より)								(単位:人)
身体障害者手帳等所持者状況 (老人ホーム含む)								
区分	1級・度	2級・度	3級・度	4級・度	5級	6級	合計	
身体障害者手帳	33	15	16	25	8	9	106	
愛の手帳	3	7	4	10	—	—	24	
精神障害者保健福祉手帳	6	20	5	—	—	—	31	

●自治会別人口と世帯数の推移						(令和6年1月1日現在)
地 域 (自治会名)	世帯数	人 口				
		総数	男	女		
下元郷	62	122	62	60		
上元郷	87	217	106	111		
本 宿	56	116	62	54		
時 坂	4	7	5	2		
笹 野	30	62	32	30		
柏木野	49	88	54	34		
出 畑	36	69	32	37		
下川乗	40	64	32	32		
上川乗	22	45	24	21		
和 田	27	45	23	22		
事 貫	25	44	19	25		
上 平	24	41	20	21		
笛 吹	17	32	15	17		
数馬下	24	42	21	21		
数馬上	22	42	23	19		
茅 倉	11	24	15	9		
千 足	37	70	38	32		
中 里	18	46	21	25		
白 倉	32	68	38	30		
大 沢	13	30	14	16		
神 戸	60	114	58	56		
宮ヶ谷戸	54	96	53	43		
夏 地	40	66	37	29		
湯久保	20	32	22	10		
小 岩	53	107	58	49		
尾根通	3	4	2	2		
笹久保	20	30	15	15		
日向平	11	22	12	10		
中 組	15	27	12	15		
倉 掛	16	24	12	12		
小 計	928	1,796	937	859		
笹 野②	113	113	32	81		
宮ヶ谷戸②	77	77	18	59		
小 計	190	190	50	140		
総 数	1,118	1,986	987	999		

## 位置・地勢

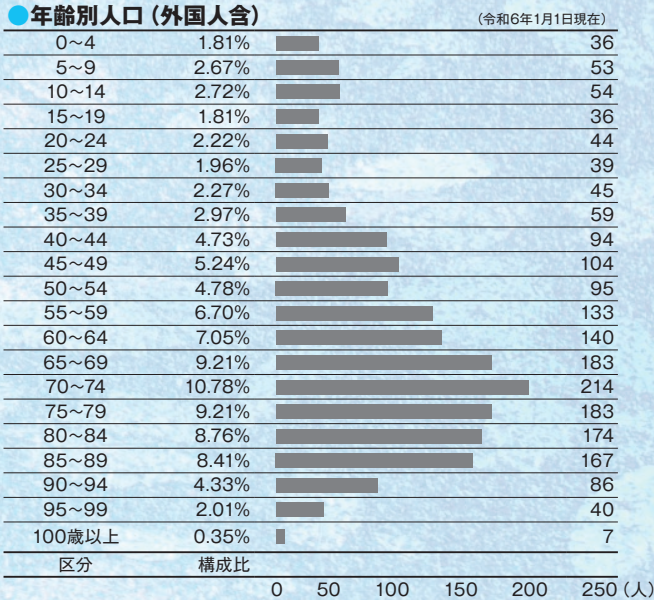
本村は、東京都の西に位置し、一部を神奈川県と山梨県に接している。面積は、105.41km<sup>2</sup>となっており村の周囲を急峻な山嶺に囲まれ総面積の93%が林野で平坦地は少なく、村の大半が秩父多摩甲斐国立公園に含まれている。

村の中央を標高900mから1000mの尾根が東西に走っており、尾根の麓に北秋川、秋川が流れていて、この川沿いに集落が点在している。



## 人口

●産業別人口調べ						(単位:人)
年度	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能	計	
昭和35年	男 726	509	291	4	1,530	
	女 334	20	146	2	502	
	計 1,060	529	437	6	2,032	
40年	男 534	563	407	0	1,504	
	女 217	79	198	1	495	
	計 751	642	605	1	1,999	
45年	男 339	709	432	0	1,480	
	女 191	200	281	0	672	
	計 530	909	713	0	2,152	
50年	男 205	626	527	1	1,359	
	女 18	187	331	1	537	
	計 223	813	858	2	1,896	
55年	男 183	610	540	0	1,333	
	女 27	185	330	2	544	
	計 210	795	870	2	1,877	
60年	男 94	598	569	0	1,261	
	女 10	183	362	2	557	
	計 104	781	931	2	1,818	
平成2年	男 104	554	549	1	1,208	
	女 20	160	424	0	604	
	計 124	714	973	1	1,812	
7年	男 84	486	530	2	1,102	
	女 12	140	396	3	551	
	計 96	626	926	5	1,653	
12年	男 45	363	883	15	1,306	
	女 5	82	36	8	131	
	計 50	445	919	23	1,437	
17年	男 49	280	478	1	808	
	女 8	70	388	1	467	
	計 57	350	866	2	1,275	
22年	男 43	221	450	1	715	
	女 11	55	368	5	439	
	計 54	276	818	6	1,154	
27年	男 34	158	396	33	621	
	女 8	41	331	16	396	
	計 42	199	727	49	1,017	
令和2年	男 27	138	351	31	547	
	女 8	41	313	26	388	
	計 35	179	664	57	935	





●環境衛生(令和4年度事務報告書より)

(1) し尿  
令和5年3月31日現在汲取可能世帯数 100 世帯  
令和5年3月31日現在汲取不可能世帯数 32 世帯  
実績 浄化槽世帯数 113 世帯 (合併浄化槽 69 単独 44)

年度	投入量(ℓ)	世帯数	汲取世帯
令和5年度	358,240	1,124 世帯	100 世帯

(2) ごみ収集  
●収集回数  
・燃やせるごみ収集場所 232ヶ所  
・燃やせるごみ 週2回  
・不燃ごみ・資源収集場所 114ヶ所  
・燃やせないごみ 月2回  
・資源 週1回  
・粗大ごみ 個別収集 (有料)  
・有害ごみ (指定袋) 不燃ごみと同じ

実績	年度	可燃ごみ	不燃ごみ	資源	粗大ごみ	合 計
	令和4年度	561.1	13.2	138.7	55.3	768.3

●下水道整備状況(令和4年度事務報告書より)

項目	事業計画		事業認可		整備面積等		
年度	面積 ha(A)	人口 (人)	面積 ha(A)	人口 (人)	管渠延長(m)	面積 ha(C)	整備率%(C/B)
平成 20 年度	83.0	2,220	83.0	2,220	2,679	12.36	14.9
平成 21 年度	83.0	2,220	83.0	2,220	4,869	7.48	9.0
平成 22 年度	83.0 (95.0)	2,220 (2,240)	83.0 (95.0)	2,220 (2,240)	2,018	3.02	3.6 (3.2)
平成 23 年度	95.0	2,240	95.0	2,240	1,023	0.17	0.2
平成 24 年度	95.0	2,240	95.0	2,240	1,826	1.06	1.1
平成 25 年度	95.0	2,240	95.0	2,240	2,310	7.93	8.3
平成 26 年度	95.0 (102.0)	2,240 (2,070)	95.0 (102.0)	2,240 (2,070)	2,190	2.50	2.6 (2.5)
平成 27 年度	102.0	2,070	102.0	2,070	2,565	2.45	2.4
平成 28 年度	102.0	2,070	102.0	2,070	1,885	0.82	0.8
平成 29 年度	102.0	2,070	102.0	2,070	1,278	1.16	1.1
平成 30 年度	102.0	2,070	102.0	2,070	1,215	1.79	1.8
令和 1 年度	102.0	2,070	102.0	2,070	823	1.46	1.4
令和 2 年度	102.0	2,070 (1,900)	102.0	2,070 (1,900)	793	0.83	0.8
令和 3 年度	102.0	1,900	102.0	1,900	255	0.13	0.1
令和 4 年度	102.0	1,900	102.0	1,900	114	0.18	0.1
計	102.0	1,900	102.0	1,900	46,417	101.94	99.9

●併用開始区域

併用開始区域	下元郷・上元郷・本宿・笹野・柏木野 出畑・千足・中里・白倉・大沢・神戸 宮ヶ谷戸・夏地・下川乗・上川乗・小岩の一部
平成24年度まで	81.63ha
平成22年8月1日	0.68ha 出畑地区の一部
平成23年2月1日	5.45ha 出畑・下川乗の各地区の一部
平成23年6月1日	0.79ha 千足・白倉の各地区の一部
平成23年8月1日	2.23ha 上川乗地区の一部
平成24年6月1日	0.17ha 上川乗地区の一部
平成25年6月1日	1.06ha 和田・千足の各地区の一部
平成26年6月1日	7.93ha 和田・事實・上平の各地区の一部
平成27年6月1日	2.50ha 上平・笛吹の各地区の一部
平成28年6月1日	2.45ha 下川乗・上川乗・上平・笛吹・小岩の 各地区の一部
平成28年11月15日	0.50ha 笹野地区の一部
平成29年6月1日	0.32ha 数馬地区の一部
平成30年6月1日	1.16ha 数馬地区の一部
令和元年6月1日	0.08ha 数馬地区の一部
令和元年8月1日	1.71ha 数馬地区の一部
令和2年6月1日	1.46ha 数馬地区の一部
令和3年6月1日	0.83ha 本宿・数馬地区の一部
令和4年2月1日	0.13ha 本宿・数馬・小沢地区の一部
令和4年8月1日	0.18ha 本宿地区の一部
計	101.94ha

●普及率 (併用開始地域内人口/行政区域内人口)

平成30年度末	87.9%	1,928 人 /2,194 人
令和元年度末	89.6%	1,903 人 /2,125 人
令和2年度末	89.8%	1,886 人 /2,101 人
令和3年度末	89.9%	1,859 人 /2,067 人
令和4年度末	90.0%	1,817 人 /2,018 人

●接続率 (公共下水道へ接続した公共汚水ます件数/併用開始地域内公共汚水ます件数)

平成30年度末	71.8%	755 件 /1,051 件
令和元年度末	73.5%	787 件 /1,071 件
令和2年度末	74.0%	802 件 /1,084 件
令和3年度末	74.9%	822 件 /1,098 件
令和4年度末	77.0%	847 件 /1,100 件

農林業

●保有山林規模別林家数(農林業センサスより)

区分	総数(戸)	1～3ha未満	3～5ha未満	5～10ha未満	10～20ha未満	20～30ha未満	30～50ha未満	50～100ha未満	100ha以上
平成12年度	240	87	37	48	37	11	11	6	3
構成比	100.0%	36.2%	15.4%	20.0%	15.4%	4.6%	3.6%	2.5%	1.3%
平成17年度	225	72	36	44	37	9	10	11	6
構成比	100.0%	32.0%	16.0%	19.6%	16.4%	4.0%	4.4%	4.9%	2.7%
平成22年度	210	69	35	45	36	8	2	9	6
構成比	100.0%	32.9%	16.7%	21.4%	17.1%	3.8%	1.0%	4.3%	2.8%

●保有山林面積規模別経営体数(農林業センサスより)

区分	総数(戸)	1～3ha未満	3～5ha未満	5～10ha未満	10～20ha未満	20～30ha未満	30～50ha未満	50～100ha未満	100ha以上
平成27年度	18	0	0	4	3	3	2	3	3
構成比	100%	0.0%	0.0%	(22.2%)	(16.6%)	(16.6%)	(11.1%)	(16.6%)	(16.6%)
令和2年度	10	0	0	2	3	1	1	1	2
構成比	100%	0.0%	0.0%	(20.0%)	(30.0%)	(10.0%)	(10.0%)	(10.0%)	(20.0%)

●総農家数の推移(農林業センサスより)

年次	総農家数	販売農家数	自給的農家数
平成27年	161	6	155
令和2年	119	2	177

●販売農家数の推移(農林業センサスより)

年次	総数(戸)	専業	第1種兼業	第2種兼業
昭和35年	763	0	202	561
昭和40年	725	28	75	622
昭和45年	692	16	75	622
昭和50年	527	20	17	490
昭和55年	511	21	5	485
(構成比%)	(100.0%)	(4.1%)	(1.0%)	(94.9%)
昭和60年	452	26	5	421
(構成比%)	(100.0%)	(5.8%)	(1.1%)	(93.1%)
平成2年	327	15	6	306
(構成比%)	(100.0%)	(4.6%)	(1.8%)	(93.6%)
平成7年	286	33	27	226
(構成比%)	(100.0%)	(11.5%)	(9.5%)	(79.0%)
平成12年	14	4	3	7
(構成比%)	(100.0%)	(28.6%)	(21.4%)	(50.0%)
平成17年	8	4	1	3
(構成比%)	(100.0%)	(50.0%)	(12.5%)	(37.5%)
平成22年	10	2	1	7
(構成比%)	(100.0%)	(20.0%)	(10.0%)	(70.0%)
平成27年	6	2	0	4
(構成比%)	(100.0%)	(33.3%)	(0.0%)	(66.7%)

※2000年農業センサスからは販売農家のみの統計データ

防災

●消防関係

区 分	本 団	本 部分 団	第一分団				第二分団					第三分団					機 能 別	合 計
			分 団	第 一 部	第 二 部	計	分 団	第 一 部	第 二 部	第 三 部	計	分 団	第 一 部	第 二 部	第 三 部	計		
団員数	4	24	3	5	10	18	4	14	12	8	38	4	18	17	11	50	36	170
消防施設	消防ポンプ自動車				1	1			1		1			1		1		3
	消防指導車	1				0					0					0		1
	積載車	1		2	1	3		3	1	1	5	2			2	4		13
	可搬式ポンプ	1		2	2	4		3	1	2	6	2	1	2	5			16
	消火栓			11	9	20		19	9	9	37	14	10	10	34			91
	消防水槽			10	8	18		6	10	7	23	7	3	8	18			59
	水利道			4	3	7		23	4	12	39	14	7	10	31			77
	器具庫			1	2	3		3	2	1	6	2	2	2	6			15
	受け持ち面積 (km <sup>2</sup> )	105.4		3.4	14.6	18		22.6	10.4	12.8	45.8	15.1	5.1	21.4	41.6			105.4

●老人福祉(令和4年度事務報告書より)

(1) 敬老金支給事業				(2) 老人クラブ助成事業				
区分	対象者数	支給金額	備 考	クラブ数	会員数	単位クラブ助成	連合会助成	
村単独分	170	1,170,000	75・80・85・88・90・95 歳	1 人 5,000 円× 136 人	4 クラブ	278 人	1,265,000	100,000 円
			101 歳以上	1 人 10,000 円× 25 人				
				1 人 20,000 円× 7 人				
				1 人 50,000 円× 2 人				

●保育施設の現況

区分	定員	保育児童数	所在地
	0 歳 1 歳 2 歳 3 歳 4 歳以上 計		
認可保育所	5 6 6 13 18 48	48	上元郷

●介護保険(令和4年度事務報告書より)

(1) 保険料		(2) 対象者数				
段階	年間保険料（軽減後保険料）	段階	特別徴収	併 徴 収	普通徴収	計
第 1 段階	47,400 円（28,440 円）	第 1 段階	139 人	10 人	27 人	176 人
第 2 段階	71,100 円（47,400 円）	第 2 段階	86 人	9 人	1 人	96 人
第 3 段階	71,100 円（66,300 円）	第 3 段階	82 人	4 人	2 人	88 人
第 4 段階	85,320 円	第 4 段階	71 人	0 人	9 人	80 人
第 5 段階	94,800 円	第 5 段階	124 人	3 人	0 人	127 人
第 6 段階	113,760 円	第 6 段階	153 人	4 人	13 人	170 人
第 7 段階	123,240 円	第 7 段階	119 人	2 人	12 人	133 人
第 8 段階	142,200 円	第 8 段階	47 人	1 人	9 人	57 人
第 9 段階	161,160 円	第 9 段階	41 人	2 人	11 人	54 人
		計	862 人	35 人	84 人	981 人

●在宅・施設別サービス利用状況(令和4年度事務報告書より)

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
在 宅	人 数	1	7	6	35	10	5	1	65
	構成率	1.5%	10.8%	9.2%	53.9%	15.4%	7.7%	1.5%	100.0%
地域密着型	人 数	0	0	5	23	5	2	1	36
	構成率	0%	0%	13.9%	63.9%	13.9%	5.5%	2.8%	100.0%
特 養	人 数	—	—	0	10	24	19	11	64
	構成率	—	—	0%	15.6%	37.5%	29.7	17.2%	100.0%
老 健	人 数	—	—	0	3	6	5	1	15
	構成率	—	—	0%	20.0%	40.0%	33.3%	6.7%	100.0%
療養型	人 数	—	—	0	0	0	1	2	3
	構成率	—	—	0%	0%	0%	33.3%	66.7%	100.0%
合 計	人 数	1	7	11	71	45	32	16	183
構 成 率	構成率	0.5%	3.8%	6.0%	38.8%	24.6%	17.5%	8.8%	100.0%

保健・医療・衛生

●診療状況(令和4年度事務報告書より)

施設名	診療科目	開設日	診療時間	職員数
				医師 看護師 放射線技師 歯科衛生士 事務職
内科・外科・小児科	月曜～土曜(土・午前のみ)	午前9時～午後5時	常勤2名、非常勤4名	
歯原診療所	歯科	月曜～土曜(土・午前のみ)	午前9時～午後5時	常勤1名、非常勤1名 看護師1名 准看護師2名 非常勤1名 常勤2名 非常勤1名
	消化器外科	毎月第2・4金曜日	午前9時～午前12時	非常勤1名
	眼科	毎月第2金曜日	午後1時～午後3時	非常勤1名
合計			常3名 非7名	常3名 非1名 非1名 常2名 常2名 非1名

●令和4年度診療報酬点数保険種別及び月別内訳表(令和4年度事務報告書より)

	国 保	社 保	後 期 高 齢 者	生 保	合 計
	件数 日数 点数	件数 日数 点数	件数 日数 点数	件数 日数 点数	件数 日数 点数
歯原診療所	1,820 2,366 2,219,767	1,492 1,806 1,659,438	3,707 6,267 4,701,110	168 396 173,086	7,187 10,835 8,753,401
同上歯科	2,259 3,298 2,749,064	1,885 2,556 2,059,727	4,131 7,155 5,188,702	173 403 176,349	8,448 13,412 10,173,842
合計	4,079 5,664 4,968,831	3,377 4,362 3,719,165	7,838 13,422 9,889,812	341 799 349,435	15,635 24,247 18,927,243

●健診事業(令和4年度事務報告書より)

事業名	受診者数	事業名	受診者数
基本健康診査	30 人	前立腺がん検診	196 人
胃がん検診	272 人	肝炎ウィルス検診	46 人
大腸がん検診	369 人	歯周疾患検診	16 人
肺がん検診	352 人	骨粗しょう症検診	26 人
子宮がん検診	130 人	人間ドッグ検診	28 人
乳がん検診	143 人	風しん抗体検査	1 人

●健康教室(生活習慣病予防教室)(令和4年度事務報告書より)

実施内容	実施回数	参加人数
栄養教室ヘルシ～ひのはらいふ	6 回	14 人
歯周疾患予防教室	1 回	1 人
骨粗しょう症予防教室	1 回	10 人
計	8 回	25 人



● 檜原村の文化財（2/2）

区 分	指定年月日	名 称	所在地	所 有 者 等	備 考
民 俗 芸 能	H 3 0 . 4 . 1	上元郷の囃子	上元郷	上元郷	
	H 3 0 . 4 . 1	本宿の囃子	本 宿	本 宿	
	H 3 0 . 4 . 1	神戸の神輿渡御と囃子	神 戸	神 戸	
	H 3 0 . 4 . 1	桧原太鼓深山会	—	—	
	R 1 . 7 . 1	大獄神社の神輿渡御式	三都郷	三都郷	
	R 1 . 7 . 1	湯久保の獅子舞	湯久保	湯久保	
	R 1 . 7 . 1	樋里の獅子舞	樋 里	樋 里	
	R 3 . 1 1 . 1	小澤の囃子	小 沢	小 沢	

財政

● 令和4年度一般会計・特別会計歳入歳出決算総括表

区 分		歳 入			歳 出						歳出歳入 差引残高
		予算現額	決算額	比較 (%)	予算現額	前年度 繰越額	計	翌年度 繰越額	決算額	比較 (%)	
特 別 会 計	一般会計	4,031,833	4,002,920	99.3	3,885,026	146,807	4,031,833	0	3,865,074	95.9	137,846
	国民健康保険 事業勘定	357,041	356,504	99.8	357,041	0	357,041	0	334,705	93.7	21,799
	保健特別 診療施設勘定	213,393	214,919	100.7	213,393	0	213,393	0	208,208	97.6	6,711
	簡易水道特別会計	185,506	185,426	100.0	185,506	0	185,506	0	172,398	92.9	13,028
	都民の森特別会計	134,000	133,955	100.0	134,000	0	134,000	0	126,158	94.1	7,797
	下水道事業特別会計	225,245	225,153	100.0	207,345	17,900	225,245	0	217,073	96.4	8,080
	介護保険特別会計	473,754	477,898	100.9	473,754	0	473,754	0	454,031	95.8	23,867
	介護サービス特別会計	46,931	47,749	101.7	46,931	0	46,931	0	45,699	97.4	2,050
	後期高齢者医療特別会計	84,550	86,886	102.8	84,550	0	84,550	0	84,022	99.4	2,864
合 計		5,752,253	5,731,410		5,587,546	164,707	5,752,253	0	5,507,368		224,042

● 財政規模

区 分		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
基準財政需要額		1,297,311	1,316,307	1,398,532	1,529,336	1,525,135
基準財政収入額		210,733	217,364	241,602	237,767	254,052
基準財政規模		1,404,952	1,404,913	1,490,694	1,629,879	1,593,263
財政力指数		0.162	0.163	0.167	0.164	0.165
実質収支比率		8.2%	7.8%	9.1%	9.1%	9.1%
経常収支比率		81.6%	81.3%	73.5%	73.4%	73.2%
公債費比率		—	—	—	—	—
積立金現在高		5,520,219	5,463,767	5,410,993	5,427,095	5,797,115
地方債現在高		2,781,702	2,644,902	2,496,603	2,322,417	2,117,490
地方交付税		1,288,491	1,296,037	1,386,185	1,519,379	1,483,032
再 掲	普通公費税	1,086,578	1,096,919	1,157,489	1,290,179	1,271,083
	特別交付税	201,913	199,118	228,696	229,200	211,949
ラスパイレス指数		96.9	98.2	99.3	99.5	98.9

● 公共施設一覧

区 分	建築（建設）年度	構造	延床面積(m <sup>2</sup> )	箇所	収容人員	備 考
学 校	公営住宅	村 昭和 33・47・平成 14・15・16・19	木造、一部非木造	23 戸		
	村営住宅	村 平成 18・19・22・23・24・28・令和元		53 戸		
	定住促進住宅	村 平成 30	木造	2 戸		
	福祉センター	村 昭和 48	鉄筋コンクリート 2 階建	806.0	1 ヶ所	300 人
	小学校	村 昭和 56・昭和 60 増築・平成 16 増築	鉄筋コンクリート 3 階建・一部木造	2333.0	1 ヶ所	校舎
	中学校	村 昭和 60	鉄筋コンクリート 3 階建	3158.0	1 ヶ所	校舎
	給食共同調理場	村 平成 14	1 階鉄筋造、2 階鉄骨造	455.8	1 ヶ所	
	郷土資料館	村 昭和 62	鉄筋コンクリート 2 階建	658.0	1 ヶ所	
	コミュニティセンター	村 昭和 63・平成元・4・6	鉄筋コンクリート 2 階建	1651.0	4 ヶ所	
	役場庁舎	村 平成 4・5	鉄筋コンクリート地下 1 階地上 3 階建	2875.9	1 ヶ所	
	役場西庁舎	村 平成 27	木造 2 階建	184.2	1 ヶ所	
	温泉センター	村 平成 6・7	鉄筋コンクリート地下 1 階	807.8	1 ヶ所	観光協会へ委託
	藤倉ドーム	村 平成 9・10	鉄骨造平屋建	640.7	1 ヶ所	ゲートボール場・会議室
	高齢者在宅サービスセンター			756.6	1 ヶ所	30 人
や す ら ぎ の 里	ふれあいセンター			745.4	1 ヶ所	150 人
	診療所			794.6	1 ヶ所	100 人
	保健センター	村 平成 8～10	鉄筋コンクリート地下 1 階	382.2	1 ヶ所	30 人
	福祉作業所		地上 3 階建	350.2	1 ヶ所	15 人
	児童館			353.2	1 ヶ所	50 人
	その他の施設			689.4	1 ヶ所	空中歩廊・屋内駐車場・出 会 の塔・機械室・電気室他
	合計			5071.6	7 ヶ所	375 人
	図書館	村 平成 18		438.6	1 ヶ所	
	地域交流センター	村 平成 12		286.5	1 ヶ所	
	教育の森研修棟	村 平成 19		175.3	1 ヶ所	研修棟
	複合施設	村 平成 27		238.94	1 ヶ所	防災住宅(4 戸)・かあべえ屋
	ひのほらファクトリー	村 令和 2		440.37	1 ヶ所	
	森のおもちゃ美術館	村 令和 3		983.35	1 ヶ所	
	農林振興施設	村 令和 4		213.64	1 ヶ所	

教育・文化

● 学校規模・施設等

学 校 名	所在地	児童・生徒数				施設					教室数			
		へ き 地 級 数	総 数		学 級 数	総 面 積	敷 地 面 積	屋 外 運 動 場	敷 地		総 数	普 通 教 室	特 別 教 室	屋 内 運 動 場
			男	女					ブ ル	校 舎 面 積				
會原小学校	檜原村600	60	29	31	7	6,778 m <sup>2</sup>	3,417 m <sup>2</sup>	3,361 m <sup>2</sup>	444 m <sup>2</sup>	2,333 m <sup>2</sup>	16 室	7 室	9 室	1,122 m <sup>2</sup>
會原中学校	檜原村575	27	16	11	4	7,442 m <sup>2</sup>	1,915 m <sup>2</sup>	5,527 m <sup>2</sup>	510 m <sup>2</sup>	3,158 m <sup>2</sup>	17 室	4 室	13 室	664 m <sup>2</sup>

● 児童数・学級数の推移

区分	小学校		中学校	
	児童数	学級数	生徒数	学級数
昭和 62 年度	240	10 (1)	155	6 (1)
63	223	9 (1)	154	6 (1)
平成元年度	219	9	133	5 (1)
2	213	9	121	4 (1)
3	223	11	102	3 (1)
4	211	11	112	4
5	201	11 (2)	111	4
6	199	11 (2)	116	5 (1)
7	180	11 (2)	110	4 (1)
8	174	10 (1)	110	4 (1)
9	159	10 (1)	110	4 (1)
10	151	10 (1)	100	4 (1)
11	146	6 (1)	85	3
12	142	6 (1)	81	3
13	130	6 (1)	77	3
14	129	6 (1)	81	3
15	128	6 (1)	72	3
16	124	6 (1)	67	3
17	115	6 (1)	65	3 (1)
18	108	6 (1)	59	3 (1)
19	107	6 (1)	56	3 (1)
20	101	6 (1)	51	3 (1)
21	90	6 (1)	53	3
22	78	6 (1)	51	3
23	72	6	48	3 (1)
24	70	6	40	3 (1)
25	66	6	40	3 (1)
26	59	6	40	3
27	52	6	42	3
28	50	6 (1)	32	3
29	49	6 (1)	25	3
30	44	6 (1)	19	3
令和元年度	53	6 (1)	21	3
2	54	6 (1)	22	3
3	51	6	23	3 (1)
4	63	6	25	3 (1)
5	60	6 (1)	27	3 (1)

※（ ）は特別支援学級数（固定）

● 檜原村の文化財（1/2）

区 分	指定年月日	名 称	所在地	所 有 者 等	備 考
国	重要文化財		S53. 1.21	小林家住宅	藤 倉 檜原村
			H23.10.28	中村家住宅主屋	数 馬 中村光則
	登 録 有 形 文 化 財	H25. 3.29	蛇の湯温泉たから荘	数 馬	小林栄
		H29. 5. 2	旧高橋家住宅主屋	人 里	檜原村
都		H30. 3.27	峯岸家住宅主屋	藤 倉	峯岸葵
		S27.11. 3	小沢の式三番	小 沢	小沢式三番保存会
		S27.11. 3	笹野の式三番	笹 野	笹野式三番保存会
		S54. 3.31	柏木野の神代神楽	柏木野	柏木野神代神楽保存会
		S54. 3.31	数馬の太神楽	数 馬	数馬太神楽保存会
	民 俗 芸 能	S60. 3.18	藤倉の獅子舞	藤 倉	藤倉獅子舞保存会
		S60. 3.18	数馬の獅子舞	数 馬	数馬獅子舞保存会
		S63. 2.22	御飼神事	本 宿	春日神社氏子
		H27. 3.16	人里の獅子舞	人 里	人里獅子舞保存会
	彫 刻	S31. 3. 3	木造蔵王権現立像	人 里	五社神社
		S31. 3. 3	木造不動明王立像	人 里	五社神社
村	天 然 記 念 物	S35. 2.13	神戸岩	神 戸	吉野直樹 他 2 名
	名 勝	H12. 3. 6	三頭大滝	数 馬	東京都
	古 文 書	S62. 2.24	武蔵名勝図会稿本	上元郷	吉野一成
	史 跡	H 3 . 3 . 8	檜原城址	本 宿	市倉弘平 他 9 名
	旧 跡	S51. 8. 7	口留番所跡	上元郷	吉野一成
		S51. 8. 7	熊野神社のスギ	上川乗	代表 吉野直樹 目 6.00m 高 50.00m
		S51. 8. 7	春日神社のスギ	藤 倉	代表 吉野高明 目 5.60m 高 40.00m
		S51. 8. 7	大獄神社のヒノキ	白 倉	代表 吉野高明 目 3.20m 高 30.00m
		S51. 8. 7	笹平の大ヒノキ	笹 野	野村治男 目 2.50m 高 25.00m
	記 念 物 （名木）	S51. 8. 7	春日神社のケヤキ	本 宿	代表 吉野高明 目 6.20m 高 33.00m
		S51. 8. 7	賽の神のカヤ	人 里	福田宮夫 目 2.67m 高 15.00m
		S51. 8. 7	稻荷神社のムクエノキ	上元郷	吉野一成 目 2.25m 高 24.00m
		S51. 8. 7	馬道沢のカツラ	笹 野	(株)第一石産運輸 目 2.13m 高 27.00m
		H21. 2. 2	木造金剛夜叉明王立像	人 里	五社神社
文 化 財 （彫 刻）		H21. 2. 2	木造菩薩形坐像	人 里	五社神社
		H21. 2. 2	木造大威徳明王騎牛像	人 里	五社神社
		H21. 2. 2	木造軍荼利明王立像	人 里	五社神社

※村・記念物（名木）の備考欄 目：目通り 高：高さ



# ふるさとへの歩み 戦後から現在

## 檜原村年表

- 一九四六（昭和二一）
  - 4月1日 多摩食糧事務所五日市支所檜原村配給所を設置する
  - 5月10日 檜原村木材協同組合が創立
  - 18日 食糧飢饉突破対策委員会を設立する
  - 22日 本村への救護米割当一人225g
  - 27日 檜原村方面委員会が発足
  - 9月11日 人里分校校舎増築、運動場拡張
  - 18日 数馬に電燈がつく
  - 11月6日 大多摩観光協会（一行25名中に吉川英治もあり）から観光現地視察を受ける
  - 12月22日 農地委員を選出
- この年、檜原村青年団が再発足（男女各青年団を統合）

- 一九四七（昭和二二）
  - 3月 南檜原国民学校本校が2教室増築
  - 4月5日 第一回公選村長選挙で清水敬道が選出される
  - 30日 22名の村議会議員の選挙を施行
  - 5月5日 新制の檜原中学校開校（仮校舎、本校は檜原小、第一分校は檜原檜原小人里分校、第二分校は北檜原小、この年、校章を制定する、檜原、南檜原、北檜原の三警防団も統合して檜原村消防団を組織する

- 一九四八（昭和二三）
  - 3月1日 森田栄寿が村道診療所の医師となる
  - 4月11日 檜原農業協同組合の設立総会を開く
  - 5月 五王バス線の本宿→大沢間開通
  - 9月6日 東部診療所が落成する
  - 9日 小河内ダム工事を再開
  - この秋、檜原村婦人会が発足
  - この年、各小学校でPTAを創設する

- 一九六一（昭和三六）
  - 1月8日 西潟潤太郎檜原小学校長が現職死去
  - 3月 南檜原小学校本校校舎が西多摩郡で初の鉄筋校舎として完成
  - この年秋、西多摩地方事務所第五工区（現檜原工区）事務所が、檜原村623番地に置かれる、茅倉道工事完了
  - 6月5日 檜原鉱業所が栃の戸山を採石現場として開業する

- 一九六二（昭和三七）
  - 4月 南檜原小学校本校、人里分校
  - 9日 数馬分校でミルク給食を開始
  - 6月20日 北秋川橋の開通式
  - 7月 倉掛地区で高冷地野菜花野菜の育成を始める
  - 8月1日 警備員が各学校へ配置される
  - 9月20日 檜原中学校のプール完成
  - 11月8日 北檜原小学校の本校と第一分校でミルク給食を開始
  - 12月8日 檜原中学校本校の増築工事が完了する

- 一九六三（昭和三八）
  - 4月 義務教育学校の教科書無償供与制が始まる（小1、2年より）
  - 共助小学校がミルク給食を開始
  - 12月25日 小岩の山口薫氏が本宿でハイヤー業を始める

- 一九六四（昭和三九）
  - 1月3日 日本砕石工業株式会社檜原工場がナツトリ沢山で採掘を開始
  - 2月10日 小沢駐在所を現在地へ新築して移転
  - 4月1日 各小学校へ事務補佐員を置く
  - 7月 北檜原小学校第二分校がミルク給食を開始
  - 11月23日 檜原小学校が創立九十周年記念式典を挙行する

- 一九六五（昭和四〇）
  - 4月 檜原中学校の第一、第二分校が独立、南秋川中学校、北秋川中学校となる
  - 南檜原小学校人里分校が数馬分校を置く
  - 南秋川小学校、北檜原小学校第一分校が藤原分校を置く、北秋川小学校となる
  - 6月 泉沢、上平、茅倉、神戸の四地区有志が、東京大森花卉園園芸組合からシクラメンの栽培委託を受ける
  - 7月1日 檜原中学校がミルク給食を開始
  - 9月30日 北檜原小学校が校章を制定する

- 一九六六（昭和四一）
  - 1月10日 北檜原小学校の校舎竣工

- 一九五〇（昭和二五）
  - 5月7日 檜原中学校の本校、第一・第二分校の各校舎が竣工し、生徒を収容する
  - 7月10日 笛吹尾根と南秋川、秋川本流に囲まれる以西地区を除いた村の大部分が、秩父多摩国立公園に指定される

- 一九五一（昭和二六）
  - 4月 中里神田囃子が創立される
  - 五王線バスが大沢→小沢と本宿→上川乗間に開通
  - 6月 檜原酪農組合創立（最盛期には百頭余）
  - 7月1日 住民登録法の施行で戸籍事務が改正する
  - 8月7日 上川乗→鞘口峠間の道路が、五日市小河内線として都道三三九号線に認定される

- 一九五二（昭和二七）
  - 5月11日 檜原村森林組合の設立総会を開催
  - 9月30日 農地計画が完了する
  - 11月1日 檜原村教育委員会を設置
  - 30日 笹野と小沢の式三番が、東京都技芸として無形民俗文化財に指定される
  - この年、笹野まで電話が引ける

- 一九五三（昭和二八）
  - 11月19日 檜原村郷土芸能祭を檜原小学校で行う
  - この年から各小学校の8施設で青年学級を開催
  - また檜原中学校で校歌を制定する

- 一九五四（昭和二九）
  - 3月 千足の神田囃子が創始される
  - 4月1日 馬場灌漑用水路開発工事着工（12月完工）
  - 4日 檜原中学校本校運動場拡張工事が始まる（39年12月終了）

- 2月23日 その落成式を挙行
- 4月1日 数馬分校、藤原分校が独立し、数馬小学校、藤倉小学校となる
- 29日 檜原農協が再建第一総会を開く
- 9月 南秋川中学校が校歌を制定
- 24日 台風26号が、五日市、秋川市、御岳地区神社の神木まで倒伏する暴威（檜原は無被害）
- この年、檜原老人クラブ連合会が結成される

- 一九六七（昭和四二）
  - 2月1日 東部診療所の規模を拡大して上元郷地内へ建設する
  - 3月2日 南郷駐在所の新庁舎を現在地へ新築して移転
  - 24日 北檜原小学校が校歌を制定する
  - 5月 奥多摩有料道路工事着工
  - 11月10日 住民基本台帳法の施行で戸籍事務を改正する
  - 12月17日 電話交換方式が半自動市外集中方式となる

- 一九六八（昭和四三）
  - 2月16日 大雪雪、立木の被害甚大
  - 3月 南檜原小学校が校歌を制定
  - 4月23日 数馬の「蛇の湯」が浴用として利用許可書を東京都から受ける
  - 府中で三億円事件が発生する

- 一九六九（昭和四四）
  - 3月20日 北秋川中学校が校章制定（10月1日校歌制定）
  - 4月 檜原林務出張所が西多摩経済事務所林務課檜原林務出張所と改称
  - 6月9日 檜原郵便局の新局舎完成
  - 9月12日 北檜原小学校2年生・島崎一司が、ユーゴスラビア国主催国際美術教育会議第二回国際児童画展覧会へ、作品「馬」を出品して第一位に入選、金賞を受ける
  - 10月20日 北檜原小学校のプール構築完成
  - 11月1日 北秋川中学校が学校林と教育活動研究で教育賞を受賞
  - 28日 農村集団電話が全村的に架設される

- 一九七〇（昭和四五）
  - 2月3日 上元郷駐在所が現在地に竣工
  - 4月10日 檜原村小学校給食共同調理場完成により、村内の小中学校に完全給食を実施する
  - 7月8日 南秋川小中学校共用のプール完成
  - この年、橋樑の幅員を現況のように拡張する

- 一九七一（昭和四六）

- 5月31日 南北両診療所の開所式
- 6日 神戸の囃子が創始される
- 9月19日 南檜原小学校人里分校が失火により全焼
- この年、北檜原小学校第二分校（旧藤倉小学校の現校舎）が新築される

- 一九五五（昭和三〇）
  - 3月14日 上川乗線→栗坂峠間の県境道路起工式を挙行
  - 4月1日 人里分校（南秋川小）の校舎落成
  - 5月15日 東部診療所檜原村533番地へ新築、これに移転する
  - 10月 小岩新道が都道になる
  - 11月23日 檜原小学校が校舎新築満三十周年記念式典と、校歌の発表会を行う
  - 12月15日 新幹道路五日市上野原線が、地方道路一級に準ずることとして、上野原五日市線（都道42号→後33号線）と改称

- 一九五六（昭和三一）
  - 2月3日 北檜原小学校第一分校（北秋川小）の新校舎落成
  - 4月 共助小学校裏手土砂崩壊により校舎1階に大被害を受ける
  - 小岩以西の道路改修促進委員会発足
  - 6月 五王バス線の小沢→小岩間、上川乗→人里間が開通

- 一九五七（昭和三二）
  - 1月21日 三頭山 鞘口峠道改修促進委員会（会長中村光則）が発足する
  - 5月18日 檜原中学校が創立十周年記念式典を挙行
  - 6月 小河内貯水池（奥多摩湖）が貯水を開始
  - 8月31日 小沢→神戸間の農道工事完了
- 一九五八（昭和三三）
  - 2月 笛吹農道工事完了
  - 11日 檜原小学校が学校給食を開始（C型週3日で発足）

- 一九五九（昭和三四）
  - 10月12日 数馬分校、校舎が完成
  - 15日 南部の数馬、北部の小岩まで共同加入電話が架設される
  - この年、藤倉地区に電燈がつく

- 一九六〇（昭和三五）
  - 2月13日 神戸岩が東京都天然記念物として指定される
  - この年、五王バス線の人里→数馬間が開通、電話は藤倉まで引ける

- 7月 南檜原小学校のプール完成

- この年、鋸山林道工事完了し、奥多摩町水川地区と交通が開ける
- 第一次林業構造改善事業実施（3か年間指定を受ける）

- 一九七二（昭和四七）
  - 3月1日 北秋川小学校が校章と校歌を制定
  - 4月1日 村営水道の敷設工事が倉掛地区から始まる
  - 8月27日 檜原郵便局が日曜日集配を休止する

- 一九七三（昭和四八）
  - 4月25日 奥多摩有料道路の開通式
  - 5月 檜原中学校体育館の開館式挙行
  - 9月27日 檜原村長期総合計画を策定する

- 一九七四（昭和四九）
  - 3月10日 檜原小学校が開校百周年記念式典を挙行
  - 12日 秋川消防署檜原出張所が本宿に設置される
  - 9月20日 檜原村福祉センターが開館する

- 一九七六（昭和五一）
  - 2月10日 農集電話が単独電話になる
  - 7月 檜原村教育委員会が檜原村天然記念物として樹木11本を指定する
  - 12月25日 笹野と小沢の式三番が、文化庁から無形の民俗文化財として選択される
  - この年、高涼地利用による毎栽培の試作を始める

- 一九七七（昭和五二）
  - 4月1日 村営水道南谷水系としてその敷設工事を数馬地区から始める
  - 7月28日 檜原村教育推進協議会が、檜原村教育委員会からの村教育問題に関する諮問に対し答申書を提出
  - 9月15日 上元郷、本宿両部落共催で、神田囃子創始五十年記念式典を行う
  - この年、浅間尾根道を遊歩道として整備する

- 一九七八（昭和五三）
  - 1月21日 中組の小林忠利家住宅一棟が、国の重要文化財として指定される
  - 9月 大岳線の改修工事完了
  - この年、当初において、檜原鉱業所が閉山する

- 一九七九（昭和五四）



3月31日 柏木野の神代神楽と数馬の大神楽が、東京都無形民俗文化財として指定される

4月1日 檜原の村章と村の木（ひのき）、村の花やまぶき、村の鳥うぐいすを制定

4日 檜原第二工区が新設され、事務所を檜原工区事務所内へ置く  
この年から4か年間、第二次林業構造改善事業実施の指定を受ける

●一九八〇（昭和五五）  
3月31日 小坂志沢、矢沢、熊倉沢上流部の3万9653ヘクタールが、檜原南部自然環境保全地域として、東京都指定地になる  
小坂志沢林道延長工事（湯場の沢、石宮間）が竣工する

●一九八一（昭和五六）  
4月1日 檜原村民憲章制定

●一九八二（昭和五七）  
3月31日 共励小学校閉校 檜原小学校新築落成  
4月1日 檜原小学校、共励小学校統合  
8月 役場庁舎改築

●一九八三（昭和五八）  
4月24日 統一地方選挙

●一九八四（昭和五九）  
1月10日 長期総合計画策定  
3月31日 南檜原小学校、北檜原小学校閉校  
4月1日 南檜原小学校、北檜原小学校統合 ひのはら保育園開園  
11月 総合グラウンド夜間照明設置、檜原診療所改築、旧共励小学校取り壊す、村勢要覧作製  
12月29日 南秋川小学校校舎火災焼失

●一九八五（昭和六〇）  
2月10日 檜原小学校プール完成  
3月20日 檜原中学校校舎改築のため旧檜原小学校校舎仮校舎として引越す  
31日 南秋川小学校閉校  
4月1日 檜原小学校に南秋川小学校統合  
6月 檜原中学校取り壊し、新築工事着工  
10月5日 檜原小学校増築工事完成  
20日 第二回檜原村民体育祭入場者約2千人行われる

●一九八六（昭和六一）

●一九九七（平成九）  
1月 電算機器の導入へ検討委員会発足  
2月24日 やすらぎの里起工式行つ  
3月 檜原村公共下水道基本計画策定  
4月1日 村税振替納税始まる  
23日 檜原村納税貯蓄組合解散式行つ  
6月5日 入間白岩林道開通式が行われる（延長6、493メートル）  
7月23日 第二回檜原村女性議会行われる  
11月6、9日 公募による住民の台湾へ海外視察行われる

●一九九八（平成十）  
1月15日 大雪雪、立木が被害甚大（役場付近は40cm、都民の森70cm）  
3月 住宅マスタープラン策定  
10月11日 第六回檜原村民体育祭が行われる  
30日、11月2日 公募による住民の中国へ海外視察行われる  
12月 藤倉ドーム落成式行われる

●一九九九（平成十一）  
3月20日 国の施策による地域振興券を交付（対象者1、047人）  
31日 檜原小学校数馬分校の開校式が行われる 第三次檜原村後期基本計画を策定 南北診療所の診療を開鎖  
やすらぎの里開園  
4月1日 統一地方選が執行され村長、村議会議員が無投票当選となる  
25日 檜原村公共下水道が流域下水道に加入  
5月12日 やすらぎの里落成式が挙行される  
22日 檜原村農業委員会解散式を行つ  
7月22日 檜原村シルバー人材センター法人化される  
10月1日 旧診療所を図書館として改良し閉館  
12月22日

●二〇〇〇（平成十二）  
3月 特定環境保全公共下水道計画認可（35ha）  
3月 介護保険事業計画第1期を策定  
3月24日 檜原村旧庁舎を取り壊す  
4月1日 介護保険制度始まる  
8月30日 檜原村公共下水道工事着工  
10月15日 檜原村郷土芸能祭開催

●二〇〇一（平成十三）

3月20日 檜原中学校新築落成  
31日 北秋川小学校、藤倉小学校、数馬小学校、南秋川中学校、北秋川中学校閉校  
4月1日 檜原小学校に数馬小学校分校として北秋川小学校、藤倉小学校統合、檜原中学校に南秋川中学校、北秋川中学校統合  
2日 藤倉西東京バス運行開始  
11月 旧檜原小学校取り壊す

●一九八七（昭和六二）  
3月17日 檜原小学校、校歌、校章を制定  
31日 檜原中学校プール完成 郷土資料館竣工  
10月4日 第二回檜原村民体育祭村制一〇周年記念開催

●一九八八（昭和六三）  
1月14日 中学生による子供議会が行われる  
5月26日 郷土資料館開館  
9月 移動図書館「やまぶき号」運行開始

●一九八九（平成元）  
4月1日 第2、第4土曜日が閉庁となる  
小沢コミュニティセンター開館  
5月9日 教育相談が旧庁舎2階の一室で開始される  
10月8日 檜原村郷土芸能祭実施（入場者4千人）

●一九九〇（平成二）  
4月1日 奥多摩有料道路が一般開放  
26日 甲武トンネルの開通式が挙行される  
28日 弘沢の滝が「日本の滝一〇〇選」に選定  
5月30日 都民の森が開園  
7月8日 人里コミュニティセンター落成祝賀会  
8月20、30日 中学生海外派遣事業開始

●一九九一（平成三）  
役場庁舎・郵便局舎合築庁舎建設始まる  
2月8日、15日 第一回フライパン特派員女性オーストラリアへ海外視察  
4月21日 統一地方選挙が執行され今回から即日開票となる  
（村長・村議無投票）  
7月1日 村成ふれあい電話（一二三）開始  
8月20日 台風12号による被害が発生し都民の森閉園  
10月6日 第三回檜原村民体育祭が行われる

●二〇〇二（平成十四）  
3月 檜原村森林整備計画（変更）を策定  
5月19日 やすらぎの里3周年記念式典・社会福祉協議会3周年記念式典・やすらぎの里フェスティバルが行われる  
8月 住民基本台帳ネットワークシステム  
10月20日 村民ふれあいフェスティバルが雨天順延27日雨天中止

●二〇〇三（平成十五）  
1月14日 やすらぎの湯温泉掘削  
3月 介護保険事業計画第2期を策定  
4月 公営本宿住宅4棟供用開始  
4月1日 檜原村消防団の再編  
9日 学校給食共同調理場を新築し供用開始  
27日 統一地方選挙（村長・村議会選挙）執行  
7月 檜原村簡易水道事業変更認可（第1次拡張事業）  
8月 檜原小学校木質化始まる  
8月25日 住民基本台帳ネットワークシステム第2次サービス開始  
9月25日 第4次総合計画を策定  
12月5日 LGWAN（総合行政ネットワーク）接続開始

●二〇〇四（平成十六）  
1月6日 やすらぎの湯温泉オープン式典が行われる  
1月 旧学校給食共同調理場を取り壊す  
1月30日 藤倉地区に福祉モノレールが設置される  
4月 公営神戸住宅3棟、公営南郷住宅4棟供用開始  
6月22日、7月24日 市町村合併について住民懇談会を村内9会場で開催  
7月1日 NTT東日本による光ファイバーインターネットサービスが村内全域で開始  
8日 石原都知事が来村し都民の森で都レンジャー出陣式が行われる  
8月 檜原中学校木質化始まる  
8月7日、8日 ひのはら村ふる里まつりが弘沢の滝夏まつりと併せて開催  
9月 檜原村公共下水道基本計画変更を策定  
12月1日 東京電子自治体共同運営サービスが開始される  
15日 檜原村過疎自立促進計画を策定

●二〇〇五（平成十七）  
2月16日 数馬ヘリポート運用開始式が行われる

12月25日 多摩移管一〇〇周年記念事業に向けてTAMARAいふ協会の設立総会が都庁で行われる

●一九九二（平成四）  
2月3日、11日 第二回フライパン特派員女性によるオーストラリア海外視察  
8月1日 週休2日制が実施される（一般）

●一九九三（平成五）  
3月31日 村道中峰平線1、090メートルが完成  
4月1日 榎里コミュニティセンター開館  
31日 檜原村旧庁舎の閉庁式が行われる  
9月1日 檜原村新庁舎で開庁式が行われる  
10月7日 檜原村新庁舎・郵便局舎の落成式が行われる  
10日 郷土芸能祭が行われる  
12月21日 長期総合計画策定

●一九九四（平成六）  
3月 檜原村地域福祉計画の策定  
4月8日 旧庁舎を図書館に改築し開館  
7月7日 第一回一日女性議会が行われる  
10月9日 第四回檜原村民体育祭が行われる

●一九九五（平成七）  
3月31日 万成林道延長638・8メートルが完成する  
4月2日 南郷コミュニティセンター落成式が行われる  
23日 統一地方選挙が執行され村長・村議会議員選挙、村長無投票当選  
8月3日 都道、笹野大橋、馬場橋開通式  
9月1日 三安約定の制定  
10日 敬老福祉大会が行われる  
11月2、6日 住民のアメリカ（ロサンゼルス）海外視察実施

●一九九六（平成八）  
2月20日 西川橋完成する 架け替え  
3月 檜原村公共下水道基本構想策定  
6月19日 檜原温泉センター落成式  
7月8日 檜原村へ天皇・皇后両陛下行幸啓  
10月6日 第五回檜原村民体育祭が行われる  
25日 北京市友好団が来村する

2月 数馬地区に福祉モノレールが設置される  
3月 檜原村地域福祉計画を策定、檜原村次世代育成支援行動計画を策定  
4月1日 入湯税が導入される  
4月 公営小沢住宅（4棟）・公営小岩住宅（2棟）共用開始  
5月 地場産材利用促進事業が開始  
6月 特定環境保全公共下水道計画変更認可（83ha）  
8月20日、21日 ひのはら村ふる里まつりが弘沢の滝夏まつりと併せて開催  
10月5日 檜原村表彰式が行われる

●二〇〇六（平成十八）  
2月 檜原村行政改革大綱・実施計画を策定  
3月 山村振興計画を策定  
3月 高齢者保険福祉計画介護保険計画（第3期）を策定  
4月 IP電話を役場に設置  
4月 公共下水道事業受益者分担金徴収開始  
4月 保育園等の保護者に対する補助制度が開始  
5月17日 じゃがいも焼酎「HINOHARA」誕生  
7月1日 公共下水道が供用開始（元郷・上元郷・本宿・茅倉・千足・中里・白倉・大沢の各一部）  
7日 檜原村特定環境保全公共下水道及び流域下水道あきる野幹線供用開始記念式典が行われる  
8月1日 上元郷住宅（3棟6戸）供用開始  
8月19日、20日 弘沢の滝夏まつり・ふる里物産展が開催  
10月19日 中央区の森協定書締結式及び除幕式が行われる

●二〇〇七（平成十九）  
3月23日 都民の森「大滝の路」が森林セラピーロードに認定  
3月 障害者福祉計画（第1期）を策定  
3月 定員管理計画を策定  
3月 高齢者保健福祉計画介護保険計画第3期を策定  
4月 北秋川浄水場膜処理設備給水開始  
4月1日 檜原村立図書館が開館  
22日 統一地方選挙（村長、村議会選挙）が執行  
6月1日 公共下水道が供用開始（本宿・笹野・神戸・宮ヶ谷戸の各一部）  
7月17日、8月23日 住民懇談会が9会場で開催  
8月18日、19日 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催  
10月1日 子ども医療費助成制度が開始



●二〇〇八（平成二〇）	2月15日	デマンドバスやまびこ実証運行が神戸地区・藤倉地区で開始
	2月19日	重要文化財小林家住宅購入
	3月	地域公共交通総合連携計画を策定
	3月	健康ひのほら21を策定
	4月	定住を促進するため貸出・売買可能な空き家の登録と改修費の一部助成制度開始
	4月	若年世帯が定住するための住宅建設補助制度開始
	4月1日	教育の森が開園
	6月1日	公共下水道が供用開始（神戸・宮ヶ谷戸・夏地の各一部）
	8月	元郷住宅供用開始
	8月1日	公共下水道が供用開始（笹野・柏木野の各一部）
	8月23日、24日	弘沢の滝「水と光の響き」弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	11月	住宅用火災警報器設置100％達成
●二〇〇九（平成二一）	3月	高齢者保健福祉計画介護保険計画第4期を策定
	3月	障害福祉計画第2期を策定
	4月	檜原村商品券発行
	4月1日	環境保全条例制定
	1日	企（起）業誘致促進条例制定
	6月	笹平地区向橋供用開始
	6月1日	公共下水道が供用開始（笹野・出畑・小岩の各一部）
	8月22日、23日	弘沢の滝「水と光の響き」弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	9月	元郷住宅10戸供用開始
	10月4日	檜原村制施行120周年記念 檜原村郷土芸能祭開催
	12月	4日 檜原村表彰式が行われる
		下水道マスタープラン策定
●二〇一〇（平成二二）	2月	多摩地区で初の電気自動車導入
	2月	バイオマスタウン構想策定
	3月	檜原村地域福祉計画第2期を策定
	3月	檜原村次世代育成支援後期行動計画を策定
	6月	特定環境保全公共下水道計画変更認可（95 ha）
	6月1日	公共下水道が供用開始（上元郷・上元郷の各一部）
	7月20日	デマンドバスやまびこ実証運行が笛吹・上平で開始
	8月1日	公共下水道が供用開始（出畑の各一部）
	21日、22日	

	9月1日	弘沢の滝「水と光の響き」弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	10月	通学専用急行バスの実証運行開始
	12月	檜原小学校体育館冷暖房設備整備
		元郷住宅7戸供用開始
●二〇一一（平成二三）	2月1日	公共下水道が供用開始（出畑・下川乗の各一部）
	3月	辺地に係る総合整備計画を策定
	4月	デマンドバスやまびこ神戸線・藤倉線が本格運行
	4月	企（起）業誘致第1号企業操業開始
	4月	高齢者医療費助成制度開始
	4月	檜原学園として小・中学校一貫教育開始
	4月	全国瞬時警報システム運用開始
	4月	港区と二酸化炭素固定化の協定
	4月24日	統一地方選挙 村長、村議会選挙 執行
	5月6日	秋川農協檜原支店役場庁舎内に移転しオープン
	14日	檜原学園開園式举行
	6月1日	公共下水道が供用開始 千足・白倉の各一部
	7月21日、8月10日	住民懇談会を村内8会場で開催
	8月1日	公共下水道が供用開始（上川乗の一部）
	20日、21日	弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	10月1日	西多摩郡4町村電算システム共同化事業運用開始
	2日	第1回東京ヒルクライムHINOHARAステージ開催
	12月	重要文化財小林家住宅保存修理事業開始
●二〇一二（平成二四）	3月	檜原村森林整備計画（変更）策定
	3月	障害福祉計画（第3期）を策定
	3月	瀬戸沢林道が浅間林道と接続する
	3月	高齢者保険福祉計画介護保険事業計画第5期を策定
	3月14日	ふるさとの森FSC認証（森林認証）取得
	4月1日	上川乗住宅（1棟4戸）供用開始
	8月18日、19日	弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	6月1日	公共下水道が供用開始（上川乗の一部）
	9月9日	第2回東京ヒルクライムHINOHARAステージ大会（国体自転車競技リハサル大会）
●二〇一三（平成二五年）		

	4月1日	ひのほら線（力）創造事業開始
	1日	本宿第2住宅（4戸）供用開始
	6月1日	公共下水道が供用開始（和田・千足の各一部）
	2日	第3回東京ヒルクライムHINOHARAステージ大会（国体自転車競技デモンストラーション大会）
	7月	檜原村地域振興券発行
	8月17日、18日	弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	9月29日	第68回国民体育大会自転車競技（ロードレース）の開催
	10月25日	檜原村表彰式が行われる
●二〇二四（平成二六年）	2月24日	大雪災害役場付近で積雪80cm、村内各地孤立発生
	28日	防災行政無線デジタル化工事完了
	3月	第5次総合計画を策定
	3月	檜原村森林整備計画（変更）策定
	3月28日	真鶴町との災害時相互応援協定を締結
	4月	神戸地区 神戸大橋供用開始
	4月	西秋川衛生組合新炉完成に伴つごみ分別方法変更
	6月1日	公共下水道が供用開始（和田・事實・上平の各一部）
	7月	檜原村地域振興券発行
	8月23日、24日	弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	10月5日	第4回東京ヒルクライムHINOHARAステージ大会
	19日	檜原村政125周年記念 檜原村郷土芸能祭開催
	12月18日	ウッドスタート宣言
●二〇二五（平成二七年）	3月	特定環境保全公共下水道計画変更認可（102 ha）
	3月	障害福祉計画（第4期）を策定
	3月	高齢者保険福祉計画介護保険事業計画（第6期）を策定
	3月	檜原村地域福祉計画（第3期）を策定
	4月26日	統一地方選挙（村長、村議会選挙）が執行
	5月31日	重要文化財小林家住宅落成式
	6月1日	公共下水道が供用開始（上平・笛吹の各一部）
	7月1日	振り込め詐欺防止機能付き電話機設置及び補助事業開始
	1日	檜原村住宅用火災警報器設置事業等により設置した住宅用火災警報器の点検及び交換事業開始
	8月1日	職員防災住宅（4世帯）供用開始
	22日、23日	弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	9月1日	地域おこし協力隊発足

	10月1日	日本郵便株式会社と協定を締結 高齢者みまもり事業開始
	4日	第5回東京ヒルクライムHINOHARAステージ大会
●二〇一六（平成二八）	3月	檜原村人口ビジョン・総合戦略を策定
	4月1日	檜原村役場西庁舎が開庁
	5日	株式会社めるか檜原（第ニセクター）設立
	6月1日	公共下水道の供用開始（下川乗・上川乗・上平・笛吹・小岩地区の一部）
	7月13日	ショッピングストア「かあべえ屋」オープン
	8月20日、21日	弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	9月	檜原村の鮎が「全国清流めぐり利き鮎会 準グランプリ」受賞
	10月2日	第6回東京ヒルクライムHINOHARAステージ大会
	11月15日	公共下水道の供用開始（笹野地区の一部）
●二〇一七（平成二九）	3月	檜原村空家等対策計画を策定
	3月30日	「ひのじゃがくんポスト」受渡式が行われる
	4月	高齢者先進安全自動車購入費補助金制度開始
	6月1日	公共下水道の供用開始（数馬地区の一部）
	7月、12月	プレミアム付き商品券事業実施
	8月1日	企業誘致第2号「FUNFAM」操業開始
	19日、20日	弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	9月	郷土芸能映像記録完了平成28、29年度の2カ年事業
	10月1日	返済不要の檜原村育英資金貸付制度開始
	1日	第7回東京ヒルクライムHINOHARAステージ大会
	5日	檜原村表彰式が行われる
	19日	利島村と友好村盟約を締結
	11月	消防ポンプ自動車更新（ポンプ自動車更新完了）
	12月14日	デマンドバスやまびこ実証運行（泉沢・日向地区）開始
●二〇一八（平成三〇）	3月	檜原村一般廃棄物処理基本計画を策定
	3月	第5期檜原村障害福祉計画・第1期檜原村障害児福祉計画を策定
	3月	第7期檜原村高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定
	3月	がんばんべえ健康ひのほら21（第3次）を策定
	4月	檜原村エコ Tourismus 推進全体構想が国（環境省・国土交通省・文部科学省・農林水産省）の認定を受ける

	4月	やすらぎの里（福祉複合施設）にチップボイラーを導入
	6月1日	公共下水道の供用開始（数馬地区の一部）
	18日、27日	地域住民懇談会を8会場で実施
	7月18日	ひのじゃがくんXにしゅん西東京コラボバスが運行開始
	8月18日、19日	弘沢の滝ふるさと夏まつり開催（第30回記念開催）
	10月7日	第8回東京ヒルクライムHINOHARAステージ大会
	28日	檜原村郷土芸能記録映像の完成を記念した「檜原村郷土芸能祭」を実施
●二〇一九（平成三一・令和元）	3月	第5次檜原村総合計画後期基本計画を策定
	3月	下元郷公衆トイレが完成（建替）
	3月1日	企業誘致第4号「ウッドボックス」操業開始
	22日	中央大学商学部と「交流・連携に関する協定」を締結
	4月1日	定住促進住宅（小岩地区・2棟）供用開始
	21日	統一地方選挙（村長、村議会選挙）執行
	5月27日、29日	南郷地区において山林火災が発生（74、900㎡延焼）
	6月16日	東京都・檜原村合同水害対策訓練が行われる
	28日	土砂災害特別警戒区域指定
	8月17日、18日	弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	9月	檜原村の鮎が「全国清流めぐり利き鮎会 準グランプリ」受賞（2回目）
	9月30日	国家戦略特別区域域法に基づき「じゃがいも焼酎特区」の認定を受ける
	10月	おもちゃ等工房竣工。11月より運用開始
	10月、翌年2月	プレミアム付き商品券事業実施
	10月6日	第9回東京ヒルクライムHINOHARAステージ大会
	12日	台風19号により雨量64.6 mmを超え本宿地内の都道崩落により南側集落が一時孤立。家屋13棟及び村道・林道・河川にも被害が及ぶ
	12月16日	檜原村のラジオ体操動画が「東京都みんなでラジオ体操プロジェクト動画コンクール」で入賞
	19日	企業誘致第3号「フロンティアジャパン」操業開始
●二〇二〇（令和二）	3月	檜原村子ども・子育て支援事業計画（第2期）を策定
	3月	檜原村地域福祉計画第4期・檜原村自殺総合対策計画（第1期）を策定

	4月	村営みどり住宅（上元郷地区・5棟）・せせらぎ住宅（同・1棟4戸）供用開始
	5、7月	中小企業等経営持続化支援事業実施（新型コロナウイルス対応）
	8月	檜原村地域振興券発行
	8、11月	ひのほらいきいき支援金（地域経済支援金）給付
●二〇二一（令和三）	3月	神戸国際マスコ釣り場を取得
	3月	檜原村人口ビジョン・総合戦略（第2期）を策定
	3月	檜原村障害者計画・檜原村障害福祉計画（第6期）・檜原村障害児福祉計画（第2期）を策定
	7月27日	じゃがいも焼酎製造等施設「ひのほらファクトリー」オープン
	9月	土砂災害・洪水ハザードマップ配布開始
	5月	新型コロナウイルスワクチン予防接種（第1期）実施
	10月	プレミアム付デジタル商品券発行
	10月20日	檜原村表彰式が行われる
	11月3日	「檜原 森のおもちゃ美術館」グランドオープン
●二〇二二（令和四）	1月	檜原村地域再生可能エネルギー導入計画策定
	1月	檜原村過疎地域持続的発展計画（令和3年度～7年度）策定
	2月2日	じゃがいも焼酎「ひのほら物語」販売開始
	3月	国土強靱化地域計画策定
	3月	檜原村子供読書活動推進計画（第2次）
	3月	檜原村空家等対策計画（第2期）
	4月27日	登録有形文化財 旧高橋家住宅オープン
	5月	檜原村災害廃棄物処理計画策定
	6、9月	新型コロナウイルスワクチン予防接種（第2期）実施
	9月1日	笹平サテライトオフィス供用開始
	9、2月	新型コロナウイルスワクチン予防接種（オミクロン株対応）実施
	10月	秋川渓谷プレミアム付デジタル商品券利用開始
	10月2日	第10回東京ヒルクライムHINOHARAステージ大会開催
●二〇二三（令和五）	2月	木の酒「ひのほら物語HINOKI」発表
	3月	檜原村住宅マスタープラン（第2期）策定
	3月	がんばんべえ健康ひのほら21計画（第4次）策定
	3月	檜原村地域再生可能エネルギー導入実施計画策定
	4月	「ひのほら子育て・健康情報アプリ」利用開始
	4月23日	統一地方選挙（村長、村議会議員選挙）執行
	8月19日、20日	弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
	10月1日	第11回東京ヒルクライムHINOHARAステージ大会開催



our village

# ひのはらむら

## 檜原村民憲章

檜原村は、私たちが祖先からうけついで、  
由緒ある歴史と伝統をもつ村です。  
豊かな緑の山々と秋川の清流は、私たちに  
健康な体と清らかな心を  
おしみなく与えてくれます。  
この村をふるさととする私たちは、  
これを誇りとし、さらに、住みよい  
生きがいのある村にするため、  
ここに村民憲章を定めます。

- 一、自然や文化遺産を大切にし、いつまでも保存していきましよう。
- 一、健康な体と心をつくり、充実した日々を送りましよう。
- 一、子どものすこやかな成長と老人のやすらぎを願い、豊かで明るい家庭を築きましよう。
- 一、よく働き、たがいに力を合せて、活気と希望にみちた村にしましよう。
- 一、思いやりの心を伸ばし、みんながしあわせにくらせる村にしましよう。



# ひのはら

きらりと光る村



### 檜原村章

檜原の「U」の字の図案化したものです。  
丸の部分は一体化を表し、上部の三角部分は鳥の羽根を図案化し、  
通疎化が進む中でも村民が沈むことなく一体となって飛躍するこ  
とを望む図案となっています。



村の木「ひのき」



村の花「やまぶき」



村の鳥「うぐいす」